

DOCUMENT RESUME

ED 061 797

FL 002 990

TITLE Japanese Basic Course: Exercise Book.
INSTITUTION Defense Language Inst., Washington, D.C.
SPONS AGENCY Department of Defense, Washington, D.C.
REPORT NO DLI-01-JA-47
PUB DATE Dec 71
NOTE 91p.
AVAILABLE FROM Director, Defense Language Institute, Department of the Army, U.S. Naval Station, Anacostia Annex, Washington, D.C. 20390 (With specific permission)

EDRS PRICE MF-\$0.65 HC Not Available from EDRS.
DESCRIPTORS *Conversational Language Courses; Cultural Education; Dictionaries; Grammar; *Instructional Materials; *Intensive Language Courses; *Japanese; Language Instruction; *Modern Languages; Textbooks

IDENTIFIERS *Kanji

ABSTRACT

This exercise book, prepared for use after Lesson 121 of the Defense Language Institute Basic Course in Japanese, provides for instruction in the use of Kanji dictionaries, familiarizes students with useful phrases and expressions that are not included in the Basic Course, and allows for greater variety in the classroom. The ten lessons, in the Japanese Kanji script, deal with grammatical items, idioms and expressions, proverbs, politeness, and other cultural matters. Students are to perform exercises in class under the instructor's supervision and discuss the results the following day. (RL)

ED 061797

J A P A N E S E
BASIC COURSE

Exercise Book

U.S. DEPARTMENT OF HEALTH, EDUCATION & WELFARE
OFFICE OF EDUCATION

THIS DOCUMENT HAS BEEN REPRODUCED EXACTLY AS RECEIVED FROM THE
PERSON OR ORGANIZATION ORIGINATING IT. POINTS OF VIEW OR OPINIONS
STATED DO NOT NECESSARILY REPRESENT OFFICIAL OFFICE OF EDUCATION
POSITION OR POLICY.

December 1971

DEFENSE LANGUAGE INSTITUTE

061797-002

DEFENSE LANGUAGE INSTITUTE

This pamphlet is for use by the faculty, staff and students of the Defense Language Institute solely for official purposes. It is NOT for general distribution. It may NOT be released to other persons, quoted or extracted for publication, or otherwise copied or distributed without specific permission in each instance from the Director, Defense Language Institute.

"PERMISSION TO REPRODUCE THIS COPY-
RIGHTED MATERIAL BY MICROFICHE ONLY
HAS BEEN GRANTED BY

**DEFENSE LANGUAGE
INSTITUTE**

TO ERIC AND ORGANIZATIONS OPERATING
UNDER AGREEMENTS WITH THE U.S. OFFICE
OF EDUCATION. FURTHER REPRODUCTION
OUTSIDE THE ERIC SYSTEM REQUIRES PER-
MISSION OF THE COPYRIGHT OWNER."



ROY M. KESSLER
Colonel, USA
Director

PREFACE

This exercise book has been prepared for use after Lesson 121 of the Basic Course, during the third hour of the morning for the following purposes:

1. To break the monotony of the daily routine of the classroom.
2. To teach the use of Kanji dictionaries.
3. To familiarize student with useful phrases and expressions that are not included in the Basic Course.

Students will perform specific exercises as directed by instructors and turn them in at the end of the hour.

Instructors will review and discuss corrected exercises the next day.

TABLE OF CONTENTS

	Page
1. Kanji Items 1-94	1
2. Kanazukai Items 1-9	32
3. Ko, so, a, do Items 1-4	35
4. Particles Items 1-10	37
5. Conjunction Items 1-6	41
6. Idioms and expressions Items 1-21	43
7. Proverbs Items 1-12	50
8. Politeness Items 1-14	54
9. Miscellaneous (Sentences) Items 1-14	60
10. General Items 1-31	65

1. Kanji

かん字の部首となまえ

<p>頁 力 頁</p> <p>おおが おおざ ちから りこう</p>	<p>心 心</p> <p>りこう つく</p>	<p>手 手 手</p> <p>おんな おんな つちへん つちへん きへん きへん ぎょうにん ぎょうにん</p>	<p>人 人</p> <p>へん にん にん</p>
<p>尸 尸 尸</p> <p>しかばね やまいだ まだれ まだれ がんだれ たれ</p>	<p>共 共</p> <p>おいかん おいかん おいかん おいかん おいかん おいかん おいかん おいかん</p>	<p>一 一 一 一 一 一 一 一 一 一</p> <p>あなかん あなかん あなかん あなかん あなかん あなかん あなかん あなかん あなかん あなかん</p>	<p>一 一 一 一 一 一 一 一 一 一</p> <p>かんむり かんむり かんむり かんむり かんむり かんむり かんむり かんむり かんむり かんむり</p>
<p>走 走 走</p> <p>にん にん にん</p>	<p>心 心</p> <p>ころ ころ ころ</p>	<p>門 門 門</p> <p>あし あし あし あし あし あし あし あし あし あし</p>	<p>門 門 門</p> <p>かま かま かま かま かま かま かま かま かま かま</p>

つぎの文中の□の部分に左の○の中から適当なことを選んで記号で入れなさい。

① 辞典は「あいうえお、かきくけこ」の順、つまり順にことをならべてあるのがふつうです。つぎに②音が先で、ついで③音、④音の順になります。また、⑤辞典は漢字を分解してその組み立て部分に分け、その部分で引くようになっています。表紙をめくったところに⑥索引があります。引き方は、一つの部首で引いてみてなければ、また別の部首で引いてみてなければなりません。たとえば「明」をつくりの「月」で引いてなければ、⑦の「日」で引いてみるようにするのです。その他の引き方に⑧索引というのがあります。これは漢字全体の画数によって引けるようにしたものです。また、漢字の音か訓がわかっている場合は⑨索引で調べるといちばんかんたんに引くことができます。

- ⑦かまえ ⑧つくり ⑨たれ ⑩へん ⑪漢和
 ⑫清 ⑬音 ⑭半濁 ⑮部首 ⑯音訓 ⑰総画
 ⑱国語 ⑲画数 ⑳濁 ㉑五十音

二

つぎの漢字の部首名を書きなさい。

住 ()	税 ()	祝 ()	油 ()
補 ()	味 ()	電 ()	因 ()
往 ()	駿 ()	始 ()	遠 ()
招 ()	腹 ()	殺 ()	峰 ()
配 ()	写 ()	疲 ()	然 ()

答 「住」と「税」をまらげないこと。

解説 住は「亻」(にんべん) 税は「禾」(のぎべん) 祝は「礻」(しめすべん) 油は「火」(さんずい) 補は「礻」(ころもべん) 味は「口」(くちべん) 電は「雨」(あめかんむり) 因は「口」(くにがまえ) 往は「辶」(ぎょうにんべん) 駿は「馬」(うまべん) 始は「女」(おんなべん) 遠は「辶」(しんにょう) 招は「手」(てべん) 腹は「月」(にくづみ) 殺は「廾」(らまた) 峰は「山」(やまべん) 配は「酉」(とりべん) 写は「冫」(わかんむり) 疲は「疒」(やまいだれ) 然は「灬」(れつか)である。



③ つぎのかん字のうち、「かんむり」のついたものに○、「へん」のついたものに△、「たれ」のついたものに×をしなさい。(15点)

① <input type="checkbox"/> 桑	<input type="checkbox"/> 院	<input type="checkbox"/> 英	<input type="checkbox"/> 芽	<input type="checkbox"/> 階
② <input type="checkbox"/> 協	<input type="checkbox"/> 感	<input type="checkbox"/> 穿	<input type="checkbox"/> 庭	<input type="checkbox"/> 燈
③ <input type="checkbox"/> 転	<input type="checkbox"/> 放	<input type="checkbox"/> 府	<input type="checkbox"/> 働	<input type="checkbox"/> 寺

④ つぎの部首のつくかん字をそれぞれ四つずつ書きなさい。

(ア) 木 (きへん)		()	()	()	()
(イ) 水 (さんずい)		()	()	()	()
(ウ) 艹 (くさかんむり)		()	()	()	()
(エ) 耂 (てへん)		()	()	()	()
(オ) 亻 (しんにゆう)		()	()	()	()
(カ) 言 (ごんべん)		()	()	()	()

⑤ つぎの部首のつくかん字を二つずつ書きなさい。

(ア) しめすへん		()	()	(イ) いとへん		()	()
(ウ) おいがしり		()	()	(エ) かねへん		()	()
(オ) したこころ		()	()	(カ) つちへん		()	()
(キ) もんがまえ		()	()	(ク) おおがい		()	()
(ケ) つかんむり		()	()	(コ) にくつき		()	()
(ク) ころもへん		()	()	(コ) うしへん		()	()

⑥ つぎのかん字の部首の名まえを書きなさい。

(ア) 秋・料	(イ) 代・作
(ウ) 発・登	(ロ) 地・坂
(エ) 輸・転	(ハ) 店・皮
(ケ) 答・算	(ニ) 延・建
(コ) 柱・森	(ホ) 役・徒
(ク) 社・神	(ヘ) 頭・顔

解答 (ア) (のきへん) (イ) (にんべん) (ロ) (はつがしら) (ウ) (つちへん) (エ) (くるまへん) (オ) (まだれ) (カ) (たけかんむり) (キ) (えんによう) (ク) (きへん) (コ) (ぎようにんべん) (ク) (しめすへん) (ケ) (おおがひ)

⑦ つぎの漢字のうち「まだれ」には○、「やまいだれ」には△、「がんだれ」には×のしるしをつけなさい。

厘 庫 疲 周 風 原 広 包 病 府 完 厚

⑧ つぎの漢字のうち「しんにゆう」の字には○、「えんにゆう」の字には△のしるしをつけなさい。

谷 遠 国 延 春 近 建 起 照 問 盛 連
 騎 遊 役 賜 追 巨 村 岬 速 秋 送 越

⑨ つぎの漢字は何画ですか () の中に、その画数を書き入れなさい。 例 (8) 空

() 安	() 演	() 海
() 胃	() 果	() 解
() 育	() 負	() 幹
() 殿	() 殿	() 刷
() 協	() 護	() 雜

※ 「雅」の「乚」は二画

解答 画数の教え方は、「一」は二画、「し」などは二画・三画のほうに覚えておくが、**一画に数えるのがふつと**

安は(6) 演は(11) 海は(9) 胃は(9) 果は(8)
 解は(11) 育は(8) 負は(12) 幹は(13) 殿は(14)
 殿は(17) 刷は(8) 協は(8) 護は(11) 雜は(14)である。

十三

つぎの文の□の中にあてはまる適当なことばを、あとから選んで、その記号を書きなさい。

読み方のわからない漢字を□で調べるにはまず、□の□を考えて、その□を教えます。読み方がわかっている、意味のわからないことばを調べるには、□を使います。

- | | | | |
|------|--------|--------|------|
| ㉞ 画数 | ㉟ 国語辞典 | ㊱ 漢和辞典 | ㊲ 部首 |
| ㊳ 漢字 | ㊴ 記号 | ㊵ 意味 | |

十四

つぎの漢字に「不」「無」「非」のどれかをつけて、「不」をつけて意味のわかるものには「A」を、「無」の場合には「B」を、「非」の場合には「C」を、どれもつけられないものには「D」を()の中に書きなさい。

- () 視 () 成功 () 経験 () 凡 () 根氣

十五

つぎのことばの下に「的」のつけられるものは○、つかないものに×をつけなさい。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| ① 試験 () | ② 成功 () | ③ 固定 () |
| ④ 家屋 () | ⑤ 料理 () | ⑥ 陸上 () |
| ⑦ 最後 () | ⑧ 広場 () | ⑨ 失敗 () |
| ⑩ 採用 () | | |

十六 つぎの漢字の読み方について、正しいものの記号を○
てかこみなさい。

(1) 運転 (①うんてん ②うんぱん ③うんどう)
 (2) 計画 (①けいが ②けいさん ③けいかく)
 (3) 土地 (①とち ②つちち ③とち)
 (4) 熱心 (①ねつしん ②ねっしん ③ねつい)
 (5) 独唱 (①どうしょう ②どくしょう ③どくきしょう)
 (6) 下落 (①げらく ②からく ③げおち)
 (7) 軽快 (①かいかつ ②かるかい ③けいかい)
 (8) 音波 (①おとなみ ②おんぱ ③おとは)
 (9) 海藻 (①かいそう ②うみぐそ ③うみそり)
 (10) 頭上 (①とうじょう ②あたまじょう ③ずじょう)

十七 つぎのかん字の正しい読み方に○をつけなさい。

① 反省 (へんしょう
はんしょう
はんせい)
 ② 目標 (もくひょう
めひょう
もくひよ)
 ③ 失敗 (しゅつぱい
しつぱい
しつぱい)

十八 つぎのかん字の正しい読みがなを下のから選び、その記
号を答えのらんには書きなさい。(10点) (漢字中)

(1) 生存 (㉞せいぞん ㉟せいぞい ㊱しょうぞん)
 (2) 企画 (㉞きかく ㉟きが ㊱かいかく)
 (3) 絵画 (㉞えいが ㉟かいが ㊱かいかく)
 (4) 素性 (㉞すせい ㉟すじょう ㊱そせい)
 (5) 口調 (㉞こうちょう ㉟こうちやう ㊱くちやう)
 (6) 歯科 (㉞しか ㉟はか ㊱しいか)
 (7) 平易 (㉞べいよう ㉟べいえき ㊱べいい)
 (8) 貴重 (㉞きちやう ㉟きちやう ㊱きおも)
 (9) 最期 (㉞さいぎ ㉟さいじ ㊱さいき)
 (10) 象形 (㉞そうけい ㉟そうきやう ㊱しょうけい)

十九

「」の中から漢字を選び、「」の中に書き入れてじゆく語を完成しなさい。

験夕写際檢己送帶済連調演害子

- ① 政治経
- ② 一朝一
- ③ 予行 習
- ④ 工業地
- ⑤ 利 主義
- ⑥ 文化 産
- ⑦ 南極探
- ⑧ 世論 査
- ⑨ 電 写真
- ⑩ 国 空港

多く新聞などに使われていることばである。だから、このことばは平素から覚えていくことがたいせつである。

二十

つぎのじゆく語を見て、正しいほうに○をしなさい。(8点)

- ① ア成績 ② ア労働 ③ ア記録 ④ ア気節
- イ成績 イ労働 イ記録 イ季節
- ⑤ ア自真 ⑥ ア通文 ⑦ ア教界 ⑧ ア図案
- イ自信 イ通行 イ教会 イ圖案

二十一

つぎのような場合には、どのかん字を使ったらよいてしょう。正しくないほうを—でけしなさい。

- ① 医 院 ② 飲 色 ③ 貨 物 ④ 人 造 湖
- ⑤ 開 花 ⑥ 安 然 ⑦ 文 正 ⑧ 漁 港
- ⑨ 博 物 観 ⑩ 運 天
- 全 章 工 館 転

二十二

つぎの□の中に下のらんのかん字を入れてまごまごしたことはしなさい。

- ① 情 ② 丘 ③ 丘 ④ 教 (力・景・養・協・務)
- ⑤ 人 ⑥ 当 ⑦ 独 ⑧ 解 (発・通・理・特・個)
- ⑨ 他 ⑩ 注 ⑪ 夫 ⑫ 分 (入・通・界・東・妻)
- ⑬ 路 ⑭ 熟 ⑮ 列 ⑯ 識 (上・和・情・水・差)
- ⑰ 程 ⑱ 糸 ⑲ 式 ⑳ 經 (口・費・工・止・辨)



三十三

つぎのかん字のことはの読みを、□の読み方の中から選び、その番号を()の中に入れなさい。

- () 資格 () 絹糸 () 暴風 () 犯人 () 提出
 () 未知 () 経営 () 災害 () 名称 () 損失
 () 税関 () 制作 () 文化財 () 授賞 () 善人

- ①せいさく ②さいがい ③せんじん ④しかく
 ⑤みち ⑥はんにん ⑦せいかん ⑧じゅしょう
 ⑨きぬいと ⑩けいえい ⑪そんしつ ⑫ほつふう
 ⑬ていしゅつ ⑭ぶんかざい ⑮めいしょう

三十四

つぎのかん字のことはの読みを、□の読み方の中からえらび、その番号を()の中に入れなさい。

- () 成功 () 参考 () 胃腸 () 漁船 () 区別
 () 五億 () 年令 () 浴場 () 例外 () 必要
 () 満足 () A型 () 欠席 () 筆順 () 最低

- ①ねんれい ②けつせき ③きよせん ④せいがい
 ⑤さんこう ⑥ひつよう ⑦いちじょう ⑧せいこう
 ⑨さいてい ⑩こおく ⑪くべつ ⑫よくじょう
 ⑬ひつじゅん ⑭まんそく ⑮Aがた

三十五

つぎのかん字のことはの読みを、あとの読み方の中から選び、その番号を()の中に入れなさい。

- () 深白 () 有益 () 両眼 () 有効 () 能率
 () 学資 () 気絶 () 豊年 () 得意 () 省略
 () 談判 () 最善 () 状態 () 株用 () 故国

- ①ゆうこう ②とくい ③こく ④たんぱん
 ⑤けつぱく ⑥しょうたい ⑦さいよう ⑧のりつ
 ⑨ゆうえき ⑩がくし ⑪しょうりやく
 ⑫りょうがん ⑬さいせん ⑭きせつ ⑮ほうねん

三十二

つぎのかん字の読みを()の中に書きなさい。

- | | |
|---------|----------|
| ⑦電燈 () | ④十日 () |
| ⑧昭和 () | ⑤工事 () |
| ⑨八日 () | ⑥水運 () |
| ⑩西洋 () | ⑦大通り () |
| ⑪月曜 () | ⑧自動車 () |

三十三

つぎのじゆく語の読み方を書きなさい。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 幼年 () | 牛乳 () | 砂糖 () |
| 簡單 () | 卷尺 () | 縦横 () |
| 大樹 () | 蒸発 () | 垂直 () |
| 源泉 () | 演劇 () | 映画 () |

三十四

つぎのじゆく語の読み方を書きなさい。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ①死亡 () | ②値段 () | ③模様 () |
| ④内閣 () | ⑤経道 () | ⑥自宅 () |
| ⑦洗車 () | ⑧熟練 () | ⑨困難 () |
| ⑩磁石 () | | |

三十五

つぎのかん字に読みがなをつけなさい。

- | |
|---|
| () 正 () 月 () 作 () 業 () 現 () 象 () 大 () 工 () 一 () 生 |
| () 見 () 物 () 野 () 生 () 計 () 画 () 絵 () 画 () 音 () 色 () |
| () 始 () 終 () 動 () 作 () 養 () 生 () 風 () 体 () 漁 () 師 |

三十六

つぎのかん字に読みがなをつけなさい。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| ①交通機関 () | ②印刷機械 () | ③自然観察 () |
| ④生産都市 () | ⑤読書生活 () | ⑥海洋漁業 () |

三十一

つぎの かん字の読みがなを () の中に書きなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|---|------|---|---|-----|---|---|-----|
| ① | 省 | 文部省 | ② | 宿 | 宿屋場 | ③ | 氏 | 氏名 | ④ | 参 | 参考書 |
| ⑤ | 大 | 漁港 | ⑥ | 求 | 求める人 | ⑦ | 光 | 栄える | ⑧ | 小 | 説く |
| ⑨ | 数 | 量る | ⑩ | 筆 | 筆順 | ⑪ | 勝 | 敗れる | ⑫ | 深 | 浅い |

三十二

つぎの かん字の読みがなを () の中に書きなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|---|----|
| ① | 職 | 職務 | ② | 比 | 比率 | ③ | 無 | 無言 | ④ | 承 | 承知 |
| ⑤ | 国 | 境 | ⑥ | 再 | 再生 | ⑦ | 人 | 災い | ⑧ | 妻 | 妻子 |
| ⑨ | 改 | 正 | ⑩ | 現 | 現金 | ⑪ | 採 | 集る | ⑫ | 神 | 社 |

三十三

つぎのかん字のことはに、読みがなをつけなさい。

- ① 営業 () ② 減少 () ③ 授業 () ④ 判断 () ⑤ 得点 ()
 ⑥ 率直 () ⑦ 程度 () ⑧ 述語 () ⑨ 検査 () ⑩ 禁止 ()
 ⑪ 新幹線 () ⑫ 入場券 () ⑬ 週刊紙 () ⑭ 効果的 () ⑮ 再出発 ()

三十四

つぎのかん字に、読みがなを書きなさい。(15点)

- () () () () () ()
 ① 倉庫 ② 病毒 ③ 記念 ④ 漁師 ⑤ 気候
 ⑥ 単位 ⑦ 印象 ⑧ 感想 ⑨ 入浴 ⑩ 軍隊
 ⑪ 大量生産 ⑫ 漢和辞典 ⑬ 二十一世紀
 ⑭ 満員電車 ⑮ 博物学者

三十五

つぎのかん字に読みがなをつけなさい。(20点)

- () () () () () ()
 続く 境内 果足 無言 国境 (修通中)
 現象 見物 似る 熱い 計る (北尚山中)
 一夜 両戸 果実 半月 大きい (錦峯中)
 野鳥 習性 向ける 文明 親しげ (広島女学院中)

三十六

つぎのかん字の読みを()の中に書きなさい。(20点)

- ① 進歩 () ② 失敗 ()
 ③ 殺害 () ④ 悲鳴 ()
 ⑤ 無言 () ⑥ 注意 ()
 ⑦ 恒線 () ⑧ 単位 ()
 ⑨ 兄弟 () ⑩ 作業 ()

三十七

() の中に読みがなを書きなさい。(10点)

- () () ()
 ① 愛国 ② 対談 ③ 共有
 () ()
 ④ 労働 ⑤ 遠洋漁業

三十八

つぎのかん字のことはに、読みがなをつけなさい。

- ① 満員 ② 氏名 ③ 倉庫 ④ 右側 ⑤ 牧場
 ⑥ 命令 ⑦ 貯金 ⑧ 軍隊 ⑨ 投票 ⑩ 伝説

三十九

つぎのかん字のことはに、読みがなをつけなさい。

- ① 空想 ② 完成 ③ 中央 ④ 試験 ⑤ 課題
 ⑥ 各国 ⑦ 希望 ⑧ 兵隊 ⑨ 参加 ⑩ 救助
 ⑪ 水道管 ⑫ 博物館 ⑬ 養魚場 ⑭ 記念品 ⑮ 起天候

四十

つぎのかん字に、読みがなを書きなさい。(16点)

- ① 旧家 ② 教訓 ③ 態度 ④ 判定 ⑤ 座右
 ⑥ 百分率 ⑦ 計略 ⑧ 群衆 ⑨ 構成 ⑩ 点検
 ⑪ 天災地変 ⑫ 衆議院議員 ⑬ 大学教授
 ⑭ 眼科医院 ⑮ 禁酒禁煙 ⑯ 絶体絶命

四十一

つぎのかん字の読み方で、正しいものを□でつづ
みなさい。

- | | | | | | |
|-------|-------------------|------|--------------------|------|------------|
| ㉗ 図書館 | とがき
としよ
ずしよ | ④ 整理 | せいり
せえり
しょうり | ㉙ 期限 | きかん
きげん |
| ㉘ 画家 | がけ
がが | ⑤ 以前 | いぜん
いまえ | ㉚ 工夫 | こうお
こうふ |

四十二

つぎのかん字に、読みがなをつけなさい。

- () () () () ()
 ① 求める ② 栄える ③ 殺す ④ 救う ⑤ 養う
 () () () () ()
 ⑥ 折る ⑦ 浅い ⑧ 低い ⑨ 浴びる ⑩ 伝える

四十三

つぎのかん字に、読みがなをつけなさい。

- () () () () ()
 ① 預ける ② 犯す ③ 逆らう ④ 耕す ⑤ 構える
 () () () () ()
 ⑥ 除く ⑦ 絶える ⑧ 投げる ⑨ 採る ⑩ 得る

四十四

つぎの—せんのかん字に、読みがなを書きなさい。

- () ()
 (1) 救助を^①求める。 (2) 一日の生活を^②省みる。
 (3) 先生の話を^③伝えた。 (4) しわが^④満ちる。
 (5) 赤味を^⑤解^⑤ける。 (6) 試合に^⑥敗れた。

四十五

つぎの文中の()の中に、上のかん字の読みがなを
書き入れなさい。

- (1) 書物をかき着()わした人を著者()という。
 (2) 罪()を犯()すことを犯罪()という。
 (3) 必要ものを設()けて、備()えつけるこ
 とを設備()という。
 (4) お金を預()けることを預金()という。

(国語女子中)

四十一

つぎの――線のかん字に、読みがなを書きなさい。
(6点)

- 図書室に^①新刊の本がはいつた。
- 近くに^②公衆浴場ができた。
- 式が終わって、^③全員退場する。
- 暴言は^④つつしむものだ。
- ^⑤つこうで日程をかえた。
- ^⑥要点をか条書きにした。

①
②
③
④
⑤
⑥

四十二

つぎの――せんのかん字に、読みがなを書きなさい。
(6点)

- 毎月、^①貯金をしている。
- わたしの家には^②北側にまどがある。
- 病気のあとで、^③養生がだいじだ。
- ここは^④静かな地区である。
- 国語の試験が、^⑤よくできた。
- 仕事をやると^⑥完成させた。

①
②
③
④
⑤
⑥

四十三

つぎの文の――をつけた漢字の読みをひらがなで()
の中に書きなさい。(30点各々)

- ① そんなことは分別()ある者のやることではない。
- ② かれは小見()なみの代金で、ふるにはいった。
- ③ 首相()は、国会が終わって遊説()の旅に出た。
- ④ はらがいたいといったら断食()を勸()められたので、
体調()だといって断()わった。
- ⑤ 精選()したがいあって、ついに大観()を成説()
()することができた。
- ⑥ 何気()ない所件()の中にも、かなり強引()
()に目()らを主張する人がらがみえる。

〔家光寺國中〕



四十九

——せんのかん字に、読みがなを書きなさい。(80題)

- ① 山の下を流れる川を下って行くと、ダムがある。
- ② 南極は、極東ではありません。
- ③ ちゅういされたら、直ちに、直すようにしなさい。
- ④ 父と競馬を見に行った。競走馬は、さすがにスマートだった。

五十

つぎの——せんのかん字に読みがなを、□の表に音くんとつに書きなさい。(175題)

- ① 飛行機で、大空を飛んだ。 ② 照明に照らされた。
- ③ わたしは、三人姉妹のいちばん妹です。
- ④ ぼくは、棋のうちでは、国棋がいちばん好きです。
- ⑤ 小数のかけ算の、仕どりの仕置は、よくわかります。
- ⑥ 続けて行なうことを続行と言います。
- ⑦ 剣を休めることを、休息と言います。
- ⑧ 頭という字は、頭部・頭上などと使います。

五十一

つぎの——せんのかん字の読みがなを、□の中に書きなさい。

- ① 世の中では、よく、失敗は成功の母だという。
- ② 夕飯がすんでから折り紙を折って遊んだ。
- ③ ぼくの欠点を反省して、それを日記に書いた。
- ④ わたしのつくった標語が入賞した。
- ⑤ 天候が悪くなると、漁港はひっそりとする。
- ⑥ 説明の要点は、ノートに記録しておくのがよい。
- ⑦ 勉強をすすめるために、参考書を買った。
- ⑧ きょうは、毛筆習字の勉強をした。
- ⑨ 夏休みにこん虫の標本をつくった。

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

五十二

つぎの——せんのかん字は、まちがっています。
正しいかん字を()に書きなさい。

- ① おじさんに案内されて、交場の研学をしました。
② はくはまだ一月に五日位上、安んたことはない。
③ 体育のとき、機械運動をしました。百メートル競争
もしました。もう少し早く走れたらと重いました。
④ 理化は、にが手で全前だめです。けれども世界はと
くいです。
⑤ まようから、全告交通安然週間です。

五十三

つぎの文には漢字の使い方のまちがいがあります。それに——をつけ下に正しい字を書きなさい。

- | | | | |
|--|--------------------------|--|--------------------------|
| (1) 正格 <small>せいかく</small> に書く..... | <input type="checkbox"/> | (2) 算教 <small>さんけう</small> の本..... | <input type="checkbox"/> |
| (3) 「ははは」と泣 <small>な</small> う..... | <input type="checkbox"/> | (4) 乱動 <small>らんどう</small> をはたらく..... | <input type="checkbox"/> |
| (5) 一板 <small>いちばん</small> の絵..... | <input type="checkbox"/> | (6) 人を勃門 <small>はくもん</small> する..... | <input type="checkbox"/> |
| (7) 因難 <small>いなん</small> な仕事..... | <input type="checkbox"/> | (8) 郵便 <small>ゆうびん</small> をくばる..... | <input type="checkbox"/> |
| (9) 邪 <small>よこしま</small> をいる..... | <input type="checkbox"/> | (10) 県長 <small>けんちやう</small> のある町..... | <input type="checkbox"/> |
| (11) あかちゃんが啼 <small>な</small> く..... | <input type="checkbox"/> | (12) こみを呑 <small>の</small> てる..... | <input type="checkbox"/> |
| (13) 危剣 <small>いけん</small> な橋..... | <input type="checkbox"/> | (14) 敬習 <small>けいじゆ</small> をする..... | <input type="checkbox"/> |
| (15) すっかり <small>すっきり</small> せれる..... | <input type="checkbox"/> | | |

五千四

つぎの——線で結ばれたことはどうして、反対語には
 ①、対語には②、類似語には③、同類語には④の記号を
 つけなさい。

- | | |
|-----------|-----------|
| () 原因—結果 | () 予習—復習 |
| () 父—母 | () 進歩—向上 |
| () 不安—心配 | () 成功—失敗 |
| () 安全—危険 | () 往復—片道 |
| () 欠点—短所 | () 全体—部分 |

☒ 「先生」と「生徒」は対語であり「忠告」と「忠言」は類
 似語である。また、「観測」と「測量」は同類語である。

五千五

つぎのじゆく語にかなをつけ、同音異義のものには
 ○、同訓異義のものには△をつけなさい。

例 (キヨウギ) 聴教・協賛 ○

- | | | | |
|-------------|---|-----------|---|
| () 性格・正確 | □ | () 押す・推す | □ |
| () 打つ・討つ | □ | () 用意・容易 | □ |
| () 行動・講堂 | □ | () 完成・敬声 | □ |
| () 生命・声明 | □ | () 望む・臨む | □ |
| () 現わす・著わす | □ | () 消化・消火 | □ |

五十六

つぎのことはの反対語を、あとのことばの中から選び、その記号を()の中に書きなさい。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| ① 欠点 () | ② 儉約 () | ③ 自然 () |
| ④ 必然 () | ⑤ 暗黒 () | ⑥ 円満 () |
| ⑦ 順調 () | ⑧ 苦手 () | ⑨ 偉大 () |
| ⑩ 破壊 () | ⑪ 輸出 () | ⑫ 陰気 () |
| ⑬ 合成 () | ⑭ 困難 () | ⑮ 否決 () |

ア 可決	イ 輸入	ウ 不調	エ 美点	オ 光明
カ 平凡	キ 陽気	ク 得手	ケ 分解	コ 偶然
サ 人工	シ 不和	ス 容易	セ 浪費	ソ 建設

五十七

つぎの上のらんのことばの反対の意味のことばを選んで○印をしなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| (1) 安全 | (2) 困難 | (3) 平安 | (4) 危険 | (5) 心配 |
| (6) 短所 | (7) 場所 | (8) 長所 | (9) 近所 | (10) 所在 |
| (11) 平和 | (12) 講和 | (13) 戦争 | (14) 終戦 | (15) 和平 |
| (16) 失敗 | (17) 完敗 | (18) 成功 | (19) 失望 | (20) 敗北 |
| (21) 利益 | (22) 損害 | (23) 不利 | (24) 純益 | (25) 利用 |
| (26) 単純 | (27) 不純 | (28) 単位 | (29) 複雑 | (30) 簡単 |
| (31) 安心 | (32) 小心 | (33) 心配 | (34) 不安 | (35) 失心 |
| (36) 未来 | (37) 将来 | (38) 過去 | (39) 来世 | (40) 去来 |

五十八

つぎのことばの反対語を、あとの()の中から選び、かん字にならして記入しなさい。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| (1) 肯定 () | (2) 権利 () | (3) 容易 () |
| (4) 移動 () | (5) 安全 () | (6) 拡大 () |

(ジツケン・シヨウクシヨウ・キタイ・キケン・セイシ)
(ウリヤク・ヒテイ・ギム)

(海星女子学院中)

五十九

つぎのはんたい語を()に書きなさい。

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| ① 明るさ () | ② 重さ () | ③ あさ () |
| ④ 細い () | ⑤ 生まれる () | ⑥ 話し手 () |
| ⑦ すてる () | ⑧ 屋内 () | |

六十一 つぎの、ほんたい語を()に書きなさい。ならった
かん字は、使うようにしましょう。

① 悲しみ () ② 太い () ③ 悪い ()
④ 軽い () ⑤ 長い () ⑥ 和 ()
⑦ 平和 () ⑧ 会う () ⑨ 外 ()

六十二 つぎの()に、ほんたいのことばを記入しな
さい。

① 太い () ② よい () ③ あつい ()
④ ひくい () ⑤ 左 () ⑥ あさい ()
⑦ 東西 () ⑧ とつ着 () ⑨ 登校 ()

六十三 つぎの()に、上のほんたい語を書きなせ
い。

① 明るい () ② 始め ()
③ 近い () ④ 強い ()
⑤ 前 () ⑥ 成_り功 ()

六十四 つぎのことばとはんたいの意_いみのかん字を書きなさい
(18点)

① 安心 () ② 帰着 ()
③ 平和 () ④ 上流 ()
⑤ 最後 () ⑥ 登山 ()

六十五 つぎのかん字と、ほんたいの意_いみをおつかん字
を()からえらんで入れなさい。(16点)

1 集 2 発 3 悲 4 曲
5 整 6 自 7 始 8 内

外着終他 喜直散重

二十六

つぎの意味にあたるじゆく語を選び、その記

号を□に書き、読み方を()に書きなさい。

- | | | | |
|------|------------|---|-----|
| (1) | あたまがいたいこと | □ | () |
| (2) | むねのきんにくのこと | □ | () |
| (3) | 広い場所のこと | □ | () |
| (4) | じやまになること | □ | () |
| (5) | 責任をおうこと | □ | () |
| (6) | 山のてっぺんのこと | □ | () |
| (7) | 人をさばくこと | □ | () |
| (8) | 仕事などをするこゝ | □ | () |
| (9) | すききらいのこと | □ | () |
| (10) | わらい声のこと | □ | () |

- ① 広域 ④ 頭痛 ⑦ 笑声 ⑩ 胸筋 ⑬ 好悪
 ② 頂上 ⑤ 探業 ⑧ 裁判 ⑪ 負担 ⑭ 障害

二十七

つぎのことはについて、同じような意味のことは

を、下からえらんで、その記号に○をしなさい。(8点)

- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| ① ありがとう | ⑦ たいへん | ④ すぐさま | ⑩ ようす |
| | ⑤ ねえさま | ③ けれども | |
| ② たぶん | ⑦ しばらく | ④ たくさん | ⑩ けつして |
| | ⑤ おそろく | ③ そして | |
| ③ うっすら | ⑦ めいめい | ④ いちいち | ⑩ おののお |
| | ⑤ まちまち | ③ ほんのり | |
| ④ すいぶん | ⑦ なにぶん | ④ さかんに | ⑩ とつても |
| | ⑤ 少し | ③ たぶん | |

二十八

つぎの()の中のことは、いちばん近いこと

は、下の四つから一つだけ選んで○でかこみなさい。

- ① [忠告]——いさめる しかる おどす 悪口
 ② [著に]——かつて たびたび ふだんに 非常に
 ③ [勤勉]——学校 努力 成功 幸福

六十九

つぎの下のだんには、上だんのことばの「い
いかえ」が書いてあります。あてはまるものの記号を
()の中に書きなさい。

- | | |
|-------------|----------------|
| ① あざむく () | ㉞ 大声でしかる |
| ② いきどおる () | ㉟ 人をうやまつて自分をひく |
| ③ おびえる () | ㊱ くする |
| ④ はかない () | ㊲ だます |
| ⑤ つかのま () | ㊳ まえから |
| ⑥ むとほる () | ㊴ おそれてふるえる |
| ⑦ あらかじめ () | ㊵ はらをたてる |
| ⑧ ののしる () | ㊶ よくふかくものをはしがる |
| ⑨ わななく () | ㊷ たしかでない |
| ⑩ へりくだる () | ㊸ ちよつとの間 |
| | ㊹ こわがる |

七十

上のらんのことばと、ほとんど同じ意味で使
われているものを下のらんから一つ選び出して記号で
答えなさい。

- | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|
| 11 以後 () | ㉞ 以前 | ㉟ 以来 | ㊱ 以上 | ㊲ 前後 |
| 12 永遠 () | ㊳ 永久 | ㊴ 遠望 | ㊵ 永続 | ㊶ 永住 |
| 13 外観 () | ㊷ 直観 | ㊸ 外面 | ㊹ 主観 | ㊺ 外見 |
| 14 気質 () | ㊻ 同質 | ㊼ 木質 | ㊽ 気性 | ㊾ 気品 |
| 15 区別 () | ㊿ 区画 | ㊱ 区域 | ㊲ 特別 | ㊳ 差別 |
| 16 賛成 () | ㊴ 賛意 | ㊵ 反対 | ㊶ 同意 | ㊷ 完成 |
| 17 静養 () | ㊸ 静止 | ㊹ 休養 | ㊺ 栄養 | ㊻ 修養 |

七十一

上のだんのことばとよく似たことばが下にあ
れば、○をつけなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|---------|
| ① 首府 | ア 首都 | イ 部首 | ウ 幕府 | ㉞ ○ は病 |
| ② 未来 | ア 以来 | イ 将来 | ウ 来年 | ㉟ 人と病 |
| ③ 病人 | ア 健康 | イ 患者 | ウ 病院 | ㊱ 院とを |
| ④ 立身 | ア 心身 | イ 出世 | ウ 独立 | ㊲ 結びつ |
| ⑤ 日常 | ア 平常 | イ 通常 | ウ 日用 | ㊳ ○ こと |
| ⑥ 改善 | ア 改札 | イ 改造 | ウ 改良 | ㊴ ○ は成 |
| ⑦ 同意 | ア 賛成 | イ 賞賛 | ウ 反対 | ㊵ 画と画 |
| ⑧ 故国 | ア 国家 | イ 中国 | ウ 祖国 | ㊶ ○ 家 |
| ⑨ 進歩 | ア 新進 | イ 向上 | ウ 歩行 | ㊷ ○ を結 |
| ⑩ 自然 | ア 当然 | イ 自由 | ウ 天然 | ㊸ ○ ない。 |

七十一

つぎと、同じような意味のことはを、下からえらんで記号を入れなさい。(6点)

- ① 太陽 () ② 電燈 ()
 ③ 海路 () ④ 決心 ()
 ⑤ 飛行場 () ⑥ 発音 ()

- | | |
|------|------|
| ⑦ 照明 | ⑧ 決意 |
| ⑨ 日輪 | ⑩ 航路 |
| ⑪ 空港 | ⑫ 発声 |

七十二

上のことばと同じ意味のことばを () からえらび、記号に○をしなさい。

- (1) 着物 () ⑦ 家屋 () ⑧ 乗り物 () ⑨ 衣服 () ⑩ 食物 ()
 (2) 道 () ⑦ 線路 () ⑧ 山道 () ⑨ 坂道 () ⑩ 道路 ()
 (3) 一番 () ⑦ 一級 () ⑧ 一等 () ⑨ 中級 () ⑩ 当番 ()
 (4) 室 () ⑦ 家 () ⑧ 台所 () ⑨ へい () ⑩ へや ()
 (5) 晴天 () ⑦ 雨天 () ⑧ 天空 () ⑨ 天下 () ⑩ 晴れ ()

七十三

つぎの「 」の中のことばとよく似たことばを、下から選んで○をつけなさい。

- (1) 「未来」 | () ⑦ 以来 () ⑧ 将来 () ⑨ 来年 () ⑩ 過去 ()
 (2) 「主要」 | () ⑦ 必要 () ⑧ 要領 () ⑨ 重要 () ⑩ 要件 ()
 (3) 「改良」 | () ⑦ 形式 () ⑧ 改善 () ⑨ 関心 () ⑩ 発達 ()
 (4) 「必要」 | () ⑦ 需要 () ⑧ 要求 () ⑨ 大要 () ⑩ 要点 ()
 (5) 「不安」 | () ⑦ 安心 () ⑧ 心配 () ⑨ 安全 () ⑩ 危険 ()
 (6) 「進歩」 | () ⑦ 発見 () ⑧ 進学 () ⑨ 発達 () ⑩ 退歩 ()
 (7) 「自然」 | () ⑦ 当然 () ⑧ 自由 () ⑨ 天然 () ⑩ 自在 ()
 (8) 「同意」 | () ⑦ 反対 () ⑧ 同然 () ⑨ 賞賛 () ⑩ 賛成 ()

七十四

つぎのことはの意味の、正しいほうに○をしなさい。

- | | | | |
|--------|---|--------|-----------------------------|
| (ア) 協力 | 1 たくさんのか
2 力をあわせること
3 つよい力 | (イ) 屋外 | 1 家のそと
2 屋根の上
3 まどのそと |
| (ウ) 発着 | 1 てたりついたりすること
2 きたりぬいたりすること
3 てたりひっこんだりすること | | |

七十五

つぎのことはの意味のよいほうに、○をしなさい。

- | | | | |
|------|------------------------|------|--------------------|
| ① 直線 | 1 正直な線
2 まっすぐな線 | ② 利用 | 1 うまくつかう
2 用がある |
| ③ 空港 | 1 からになった港
2 飛行場 | ④ 有名 | 1 名だかい
2 名まえがある |
| ⑤ 植林 | 1 木を植えること
2 林を植えること | ⑥ 遠洋 | 1 遠い国
2 遠い海 |

七十七

意味の正しいものに○をつけなさい。また、()の中に読みがなを書き入れなさい。(16点)

- | | | |
|------|---|-----|
| ① 無事 | (ア) かわりがたいこと
(イ) 心配なこと
(ウ) いみのないこと | () |
| ② 要点 | (ア) ひつようなこと
(イ) 点があつまること | () |
| ③ 変化 | (ア) だいたいなこと
(イ) わげのこと
(ウ) ものことがかわること | () |
| ④ 印刷 | (ア) ほんのこと
(イ) テストのプリント
(ウ) 紙などに文字をとりつけること | () |

七十八

つぎのことばの意味として正しいものを選び

○印をつけなさい。

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|-------------------------------|
| (1) 協力 | ① 力をいれる
② 力を合わせる
③ 力を強くする | (2) 単身 | ① ただひとり
② ひとり者
③ ひとりえもの |
| (3) 念願 | ① たいのむこと
② 感じること | (4) 効果 | ① ききめ
② あとしまつ
③ おしまいつ |

七十九

つぎのことばに適したじゆく語を、うしろの中から選んで () の中に書きなさい。(10点各2)

- | | |
|------------------------|-----|
| ① 外国に行くこと。 | () |
| ② 勉強するのにかかる費用。 | () |
| ③ 病気のもとになるもの。 | () |
| ④ 医者が病気をみてはんだんする。 | () |
| ⑤ 他人の家で働きながら勉強する青年のこと。 | () |

資本、学資、洋行、旅行、学生、書生、細菌、
病原体、診断、判断

[括弧中]

八十

上のことばの正しい意味をふ号で答えなさい。

- | | | |
|------------|------------------------------|--------------------------------------|
| (1) 貴重 () | ① ひじょうにたいせつ
② ひじょうに美しいこと | ③ ひじょうに重
い |
| (2) 率先 () | ① 他人より先に歩くこと
② 他人より先に歩く人 | ③ いちばん先
④ みんなの先にたつてもこの
ことをすること |
| (3) 教養 () | ① 教えたり養ったりすること
② 教えて育てること | ③ 他人を
知識 |
| (4) 觀察 () | ① 見物している人々
② おおぜいの人々 | ③ けしきを見る人
々 |

十一

つぎのじゆく語にかなをつけ、正しい意味を [] の中から選んで、その記号を () の中に入れなさい。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 以外 () | 意外 () | 異義 () | 意義 () |
| 検討 () | 見当 () | 形成 () | 形勢 () |
| 寒気 () | 歓喜 () | 期待 () | 機体 () |
| 解放 () | 開放 () | 演題 () | 遠大 () |
| 帰港 () | 紀行 () | 高価 () | 効果 () |

- ㉑ そのほかに ㉒ みこみ、めあて ㉓ あてにしてまつ
 ㉔ ひろく大きい ㉕ ききめ ㉖ 演説のだいもく
 ㉗ かたちづくる ㉘ 思いのほか ㉙ よく調べる
 ㉚ つめたい空気 ㉛ ときはなして自由にする
 ㉜ たびの日記 ㉝ あげはなす ㉞ 船が港へ帰ってくる
 ㉟ ねだんが高いこと ㊱ ことがらのわけ ㊲ よろこぶ
 ㊳ ちがったぎろん ㊴ ありさま、ようす
 ㊵ 飛行機のとう体

十二

つぎのことばのわけの正しいものに○をつけなさい。

- | | |
|--------------|---------------|
| ① くだけた人 | ② まゆをひそめる |
| ③ とつつきにくい人 | ④ 不快で頬をしがめる |
| ⑤ うちとけた人 | ⑥ 目をパチパチする |
| ⑦ いつもふざけている人 | ⑧ わらってまゆをゆがめる |
| ⑨ けむにまぐ | ⑩ たたずむ |
| ⑪ 相手の気をうばう | ⑫ 立つ |
| ⑬ 人をからかう | ⑭ しばらく立ちとまる |
| ⑮ けむりをふきつける | ⑯ 立って待つ |

十三

つぎのことはのわけの中で、もっとも適当と思つものを一つ選んでその番号を○でかこみなさい。

(カ) 効果的に
利用するに

- ① ききめがあるように、うまく利用する
- ② あとになつてから用いる
- ③ よい使いみちを考える

(キ) 水流を調
節する

- ① 川の水を流れないようにとめる
- ② 水の流れを調べて、早く流れるようにする
- ③ 水の流れを、ぐあいのよいようにとどめる

(ク) 道明
確な報

- ① あきらかたしかな知らせ
- ② はつきり聞こえる放送
- ③ 早くてよくわかるようなやり方

(ケ) 不眠不休
で働く

- ① 眠ったり休んだりして働く
- ② 眠らず休まずに働き続ける
- ③ 眠らないで旅行する

(コ) 常識のあ
る人

- ① ふつうの人とちがった人
- ② むかしのことなんでも知っている人
- ③ ふつうの人の持っている知識や考えを持つている人

十四

つぎの意みて、かん字を使うときは、どちらを使いますが。いらないほうをしせんてけしなさい。(5点)

- ① 心をそのことに集める。(注意・柱位)
- ② とりあけてつかう。(仕用・使用)
- ③ きちんと、かたづける。(正理・整理)
- ④ ニュースなどを印刷して配るもの。(新文・新聞)
- ⑤ 小さな病院のこと。(医院・仕院)

十五

つぎの意みをあらわすことばを下からえらんで記号を
入れなさい。(10点)

- | | | |
|-----------------------|-----|------|
| (1) 外国へ品物を売り出すこと | () | ㉗ 種族 |
| (2) 重さや、かさ・長さなどをはかるもの | () | ㉘ 記録 |
| (3) 同じなかまのもの | () | ㉙ 代表 |
| (4) 書いて残しておくこと | () | ㉚ 輸出 |
| (5) みんなのかわりをつとめること | () | ㉛ 計器 |

十六

つぎのことばの意みの、よいほうに○をしなさい。
(12点)

- ① 遠ざかる — 遠い坂のこと。
 — 速くなつていくということ。
- ② とりあわない — 相手にしない。
 — とりにあわない。
- ③ ひっきりなし — 切りきずなどのないこと。
 — たえまがないこと。
- ④ みすばらしい — みなりがますしい。
 — みすばだらう。

十七

つぎの文で、() の中のことはどれがいら
はんよくあっていますか。記号を○でかこみなさい。

- (1) この本は小学生を (㉜ 対象) (㉝ 対象) (㉞ 対象)
として言われたものです。
- (2) 産業の発達と交通 (㉟ 期間) (㊱ 器官) (㊲ 機関)
の発達とはたいへん深い関係があります。
- (3) ほとんどの人がA君の意見に (㊳ 参政) (㊴ 敏性) (㊵
賛成) しました。
- (4) 週に一回ずつ発行される雑誌を (㊶ 週間) (㊷ 習慣
㊸ 週刊) 雑誌といいます。

14

つぎの語句の意味で、よいものに○をしなさい。

- ① 林の中へすいこまれて行った。
 林の中にすいこむものがいて、すいこむこと。
 林の中へはいつて、見えなくなったこと。
- ② 息を引きとつてしまいました。
 死んでしまうこと。
 息子をかせしてもらうこと。
- ③ 人間ども、さるどもつかない。
 人間の味方にも、さるの味方にもならないこと。
 人間かさるか、よくわからないこと。
- ④ あつというまに、どこかへ行ってしまった。
 おどろいているうちに、いなくなること。
 みじかい時間のうちに、いなくなること。
- ⑤ そう木林にそつておかをおりる。
 そう木林のそばを逃つて、おかをおりること。
 そう木林を切りながら、おかをおりること。

19

つぎにあげた三つの字の中から、左の各文の□にふさわしい漢字を選び、答えのらんに記号で書き入れなさい。

- ㉞ ①—教 ②—驚 ③—興
- ① きょうの先生のお話で、あすのクラス会はいつもよりいつそ□味深いものになるだろう。
- ② きょうの日曜日は、天気がよかつたので、どこでも数年来にない□異的な人出を見たそつだ。
- ㉞ ④—招 ⑤—召 ⑥—紹
- ① 学校の運動会では、列車、近所の小学校を□待して、対校リレーをやることになっている。
- ② 人を□介するときには、相手にその人については

九十

() の中のような意味にあてはまることはを「」の中に書き入れなさい。

- (1) 何万という「」の見守る中を聖火は進んでいきました。(見物しているおおぜいの人々のこと)
- (2) それは、委員の人々にもっとよく「」してもらって決定することにしました。(きんみするという意味)
- (3) A君のうかつな発言のために「」な空気がただよった。(けわしいという意味)
- (4) B君は「」りっぱな態度でした。(初めから終わりまでという意味のことば)
- (5) C君はまったく「」のうちどころのない少年である。(少しも欠点がないという意味)

九十一

つぎの() の中のことばを読んで「」にあてはまることばを書きなさい。

- (1) テストの点が、いつも妹より悪いので、「」がせまい。(はずかしいという意味のことば)
- (2) コロンブスは、アメリカ大陸を「」した。(いちばん初めに見つけるという意味のことば)
- (3) まだ、あすも雨がふる「」。ラジオの天気予ほうによると。(はつきりはわからないが、人から聞いて言うとき使うことば)
- (4) きょうも雨が()と、ふっていました。(つゆときの雨のふるようすを、表わすことば)
- (5) 春子さんは、根気よくあざがおの「」を続けました。(くわしくみる、よくみるという意味のことば)



九十三

つぎのことばの中から、外来語を選び出して、かたかなに書きなおしなさい。

- (1) ひらひら (2) たばこ (3) えんじつ (4) しゃんそん
 (5) ちやわん (6) みしん (7) はんから (8) わいしやつ
 (9) めりやす (10) えのぐ (11) ばらばら (12) きりしたん
 (13) こうちや (14) ないふ (15) せんべい (16) ほうせんか

解答 (2) タバコ (4) シャンソン (6) ミシン (7) ハンカチ
 (8) アイシャツ (9) メリヤス (12) キリシタン (14) ナイフ

九十四

つぎの、外国からはいつてきたことばは、どれと同じでしょう。□ からえらんで記号を()に記入しなさい。

- ① デパート () ② トラック () ③ クイズ ()
 ④ クローバー () ⑤ スポーツ () ⑥ ポスト ()
 ⑦ アメリカ () ⑧ インフルエンザ ()
 ⑨ ライオン () ⑩ チョーク ()

- ⑦ しし ④ 運動競技 ⑦ 百貨店 ⑤ ゆう便はこ
 ⑧ しろつめくち ⑧ 流行せいのかぜ ⑥ なぞなぞ
 ⑨ はくはく ⑨ 貨物自動車 ⑩ 米国

九十五

つぎの外来語はどんな意味に使っていますか。下のらんから、あてはまるものを選んで記号で答えなさい。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| (1) アイデア…… () | ⑦ ちゆう告。 ④ あらすじ。 |
| (2) コントラスト…… () | ② くだらしない。 |
| (3) ナンセンス…… () | ⑤ こんだて表。⑥ ほしい文句。 |
| (4) マニヤ…… () | ⑦ ものことに熱狂する人。 |
| (5) メニエール…… () | ④ 考え。思いつき。 |
| (6) ライバル…… () | ⑧ 無意見。たあいな事。 |
| (7) センス…… () | ⑨ 競争相手。⑩ 対照。対比。 |
| (8) ポピュラー…… () | ⑥ 新人のこと。⑦ うつつたえる。 |
| (9) ルーズ…… () | ⑧ 感覚。感じのするどさ。 |
| (10) キャッチフレーズ () | ⑨ 大衆的。人気のある。 |

2. Kanazukai

① つぎの () の中に、送りかなを入れなさい。

⑦ 学校から帰 () ない。
 ① 学校から帰 () ました。
 ① 「おそいから帰 () 。

⑤ 「おそいから帰 () う。」
 ⑦ 帰 () ときのできごと。
 ⑦ 弟と歩 () ます。

② ① 歩 () とき、自動車に気をつけて。
 ⑦ ならんで歩 () うね。
 ④ いっしょに歩 () ない人がいる。
 ⑦ 「さっさと歩 () 。

② つぎの かなづかいて正しいほうへ ○ をつけなさい。

① ⑦ みかすきがてました。
 ① ⑦ みかつきがてました。
 ② ⑦ 東京へこつつみをおくりました。
 ① ⑦ 東京へこすつつみをおくりました。
 ③ ⑦ はなちがてました。
 ① ⑦ はなじがてました。
 ④ ⑦ ゆうべ、じしんがありました。
 ① ⑦ ゆうべ、ちしんがありました。
 ⑤ ⑦ 四つかどのところで、かちがありました。
 ① ⑦ 四つかどのところで、かじがありました。

③ 送りかなの正しいほうに ○ をつけなさい。

① ⑦ 走る	② ⑦ 苦しい	③ ⑦ 遊そぶ
④ ⑦ 走しる	① ⑦ 苦い	④ ⑦ 遊ぶ
⑤ ⑦ 美しい	② ⑦ 集る	⑤ ⑦ 助ける
⑦ ⑦ 食る	① ⑦ 集まる	⑥ ⑦ 助る
① ⑦ 食べる	② ⑦ 太い	⑦ ⑦ 送くる
	① ⑦ 太い	⑧ ⑦ 送る

④ つぎのことばの書きあらわし方のよいほうに○をつけなさい。

① いきもの <small>〔生物〕 〔生き物〕</small>	② うけとる <small>〔受け取る〕 〔受取る〕</small>
③ うりだす <small>〔売出す〕 〔売り出す〕</small>	④ おもいだす <small>〔思い出す〕 〔思出す〕</small>
⑤ おりかえす <small>〔折返す〕 〔折り返す〕</small>	⑥ さげわたす <small>〔下わたす〕 〔下げわたす〕</small>
⑦ ただちに <small>〔直ちに〕 〔直に〕</small>	⑧ ながれこむ <small>〔流れこむ〕 〔流こむ〕</small>
⑨ ものしり <small>〔物の知り〕 〔物知り〕</small>	⑩ かきおわる <small>〔書き終る〕 〔書き終わる〕</small>

よゝ 送りがない名詞にはふつうつけない。物きことばの場合には、・印語尾（動くところ）「来る」から、送りがなをつける。また、「細かい」のようなことばのときには、・印のところから送りがなをつける。

⑤ つぎのそれぞれの組のことばで、正しいほうのかなづかいの記号にしをつけなさい。

① <small>〔あ〕ゆうびんきよく 〔い〕うびんきよく</small>	② <small>〔あ〕おおきな男 〔い〕おうきな男</small>
③ <small>〔あ〕少しずつ 〔い〕少しつつ</small>	④ <small>〔あ〕すすしそ 〔い〕すすしそお</small>
⑤ <small>〔あ〕おちさん 〔い〕おじさん</small>	⑥ <small>〔あ〕あぢ 〔い〕あぢ</small>
⑦ <small>〔あ〕しつかに 〔い〕しすかに</small>	⑧ <small>〔あ〕ゆうがた 〔い〕いうがた</small>
⑨ <small>〔あ〕さやうなら 〔い〕さようなら</small>	⑩ <small>〔あ〕つくつく 〔い〕つくすく</small>

⑥ つぎのことばで正しく送りがながつけられているものには○を、そうでないものには×をしなさい。

① () 強よい。	② () 勝った。	③ () 終わる。
④ () 行く。	⑤ () 動く。	⑥ () 上がる。
⑦ () 使かう。	⑧ () 話し合。	⑨ () 少ない。

七

つぎのそれぞれの文のへんの中へ、正しい書きあらわし方をしているもののふ号をしてかこみなさい。

① かんを一つ $\left\{ \begin{array}{l} \text{ひすつ} \\ \text{いつつ} \\ \text{ちち} \end{array} \right\}$ あげるから、かあさんの

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ひゆう} \\ \text{えう} \\ \text{いう} \end{array} \right\}$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{どうり} \\ \text{とほり} \\ \text{とおり} \end{array} \right\}$ の題で、文を $\left\{ \begin{array}{l} \text{ひつすり} \\ \text{いつつり} \\ \text{ちちり} \end{array} \right\}$ なさい。

② ことしの冬は $\left\{ \begin{array}{l} \text{あたたかな} \\ \text{あたたかだ} \end{array} \right\}$ 日 $\left\{ \begin{array}{l} \text{つづいて} \\ \text{ついで} \end{array} \right\}$ 本

③ $\left\{ \begin{array}{l} \text{お} \\ \text{を} \end{array} \right\}$ 読むのがらくだったと $\left\{ \begin{array}{l} \text{お話し} \\ \text{お話し} \end{array} \right\}$ した。

④ $\left\{ \begin{array}{l} \text{みかづき} \\ \text{みかすき} \end{array} \right\}$ が $\left\{ \begin{array}{l} \text{ちめん} \\ \text{じめん} \end{array} \right\}$ をてらしていた。

〔秋田大学芸学部付中〕

八

つぎのかん字の正しい読み方に○をつけなさい。

- | | | |
|---|---|--|
| ① 鼻血 $\left\{ \begin{array}{l} \text{はなぢ} \\ \text{はなぢ} \end{array} \right\}$ | ② 火事 $\left\{ \begin{array}{l} \text{かかち} \\ \text{かかじ} \end{array} \right\}$ | ③ 水 $\left\{ \begin{array}{l} \text{みづ} \\ \text{みず} \end{array} \right\}$ |
| ④ 地面 $\left\{ \begin{array}{l} \text{ちめん} \\ \text{ちめん} \end{array} \right\}$ | ⑤ 図画 $\left\{ \begin{array}{l} \text{ずが} \\ \text{ずが} \end{array} \right\}$ | ⑥ 軸 $\left\{ \begin{array}{l} \text{じく} \\ \text{じく} \end{array} \right\}$ |
| ⑦ 暗示 $\left\{ \begin{array}{l} \text{あんぢ} \\ \text{あんぢ} \end{array} \right\}$ | ⑧ 大豆 $\left\{ \begin{array}{l} \text{だいづ} \\ \text{だいづ} \end{array} \right\}$ | ⑨ 数 $\left\{ \begin{array}{l} \text{かず} \\ \text{かず} \end{array} \right\}$ |
| ⑩ 地図 $\left\{ \begin{array}{l} \text{ちづ} \\ \text{ちづ} \end{array} \right\}$ | ⑪ 小包 $\left\{ \begin{array}{l} \text{こづつみ} \\ \text{こづつみ} \end{array} \right\}$ | ⑫ 味 $\left\{ \begin{array}{l} \text{あぢ} \\ \text{あぢ} \end{array} \right\}$ |

九

つぎのことはの送りがんで、正しいものには○、ちがっているものには×をつけなさい。

- | | | | |
|--------|--------|-------|-------|
| ① 新らしい | ② 美しい | ③ 変わる | ④ 助ける |
| ⑤ 悲なしい | ⑥ 少くない | ⑦ 答える | ⑧ 送くる |
| ⑨ 止った | ⑩ 休む | | |

- ① 「その」「この」「これ」「どんな」「あそこ」の五つのことばを()の中に合うように入れなさい。
- (1) 一本のくすの木がありました。()カが()木にあつたのでしよう。ひるもよるもぐんぐんのびていきました。
- (2) はら、()に見えるのが東京タワーですよ。
- (3) 百メートルばかりいったところに四つかどがあります。()を左にまがって、右側の三げんめがほくの家です。
- (4) ()は、たしかにすばらしい、一まいの絵を見ておじいさんはしきりに感たんしています。

- ② つぎの文の()に、ちようどよいこそあのことばを入れなさい。
- (1) あつ、ちようどよいところでお目にかかりました。こしょうがいしましょう。()が社長さんです。
- (2) てらん会を見るには、()入場けんがいります。一まいあげましょう。
- (3) みんな見てこらん。テレビどうが見えるでしよう。()山が○○山です。
- (4) モシモシ山下さんですか。何時にまいりましようか。ハイハイ、では三時に()にまいりましようか。
- (5) いらっしやいませ。()ぢまてましようか。

⑬

つぎの文の()の中のことは、どれがいちばんよいですか。よいものを選んで○印をつけなさい。

(1) ①どれ ④あれ ⑤どの)人にお金をわたしたの？

(2) ①あれ ④あちら ⑤どっち)が果にあたります。

(3) むかし城しろがあったのは(①ここ ④これ ⑤それ)です。

⑭

しつぎの文の□の中にあてはまることは、あとのらんから選んで書き入れなさい。一つのことは二回使ってはいけません。

- (1) 点線のところをおりまげ、□にのりをつけます。
- (2) 車の部分をまるく切りぬいて、□にじくを押しま
- す。
- (3) この機械は□にてもかんたんに動かせます。
- (4) つぎに、はりがねを□ふうにまげます。
- (5) きのおう買ってもらったほうしは□色でしたか。
- (6) □だったら、うまく作りあけることができます。
- (7) ほら、□に白い建物が見えてしょう。□がわたしの学校です。

{ それ・だれ・かれ・あそこ・どんな・その }
 { それ・こんな・あれ }

4. Particles

① つぎの□の中に、あとからことばをえらんで入れなさい。同じことばを何回使ってもいいのです。
 青い海のはとり□ おじいさん□おばあさん□くらし
 していました。ふたり□もう、三十三年□海のはの古ぼ
 けた小屋□住んでいるのでした。
 おじいさん□あみでさがな□とり、おばあさん□一日
 じゆう糸□つむいていました。

を・は・に・と・も・が

② つぎの文の()にあてはまることばを、あ
 とからえらんで、その記号を記入しなさい。
 ① ある養魚場()おこつたてきことです。
 ② それ()ある地下鉄駅で()てきことだ。
 ③ おかあさんも、それ()さんせいした。
 ④ それは、三千年()むかしの話だ。

㊦の ㊧に ㊨は ㊩で ㊪も ㊫を

③ ()にあてはまることばを、あとからえらんで記号
 て書き入れなさい。
 ① 歩き()本を読む。
 ② 形もいい()、色もいい。
 ③ とんなにじかられ()、やめようとしなさい。
 ④ なんべんもあやまつた()ゆるしてくれない。
 ⑤ 寒い()オーバーを着て行こう。

㊬から ㊭ても ㊮し ㊯のに ㊰ながら

④ つぎの(1)~(5)の文のうち、線の部分はどんな気持ち
をあらわしていますか。左の中から選んでその番号を答
えのらんに書きなさい。()

- (1) 何をさしあげましょうか。
(2) くわしく教えてくださいませんか。
(3) みんなでさがそうではないか。
(4) そんなはかなことがあるものですか。
(5) もちろんほんどうの話だとも。

- ⑦ 念をおしている。 ⑩ たずねている。
⑧ おどろいている。 ⑪ 残念がっている。
⑨ さそっている。 ⑫ 命令している。
④ 強めている。 ⑬ たのんでいる。
⑥ 感心している。 ⑭ 言っていることと、反対の意
味をさしている。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
-----	-----	-----	-----	-----

(真海中)

⑤ つぎの文中の「て」の使い方の中で、下にあげた例文
の「て」と同じ性質のものがあれば()の中に記号で
答えなさい。()

- ① 長男は先生で、弟は警官()で病気で欠席した。
② いつもはがらがでにこに()で水を飲んで元気に
なっている。③ 雪をけんび鏡で調べる。()でこの教室はいつも
静かだ。④ 校庭でテストする。⑤ 祖父が新聞を読んでいら()で「りつはな人間で
あれ」と願う。

六

つぎの文中の()の中に入れて適切なことばを、ひらがなで書き入れなさい。

- (1) けっして二回はわすれま()。
- (2) まさかそんなことはある()。
- (3) どうかみな様によろしくお伝え()。
- (4) うれしさのあまり、わたしはとん()、はね()しました。
- (5) たとえ雨()行きましょう。(東大谷中)
- (6) 何とぞおゆるしくた()。
- (7) まさか、ぼくがしたとは思()。
- (8) たとえ悪く言()、わたしは考えをかえないつもりだ。
- (9) かれは、学級委員だもの、まさかそんなことはし()。(大阪星光学院中)

七

つぎのA B C D Eの文の——と同じ使い方をしたものを、選び、()の中に入れてなさい。

- A この本はおもしろい()。
 - 1 ひとりもにがすな()。
 - 2 はやく旅行に行きたい()。
 - 3 この感げきをわすれる()。
- B いたずらをするからしかられるのだ。
 - 1 学校から帰るのは三時ころです。
 - 2 道がけわしいからほねが折れる。
 - 3 あしたから五分休みます。
- C 種をまくとかわいい芽を出した。
 - 1 筆と紙とをください。2 午後に行けると思います。
 - 3 その本を読むとすぐわかる。
- D かれは英語が話せる。
 - 1 雨はふるが風はない。2 勉強するのが好きです。
 - 3 雨のふるほうが静かだよ。
- E わたしの本を知らせんか。
 - 1 そんなに早く行けますか。
 - 2 いや、そんなことがあるものか。
 - 3 なるほどそういうわけでしたか。



八

しづきの□の中に、へ・え・お・を・は・わ
を入れましょう。(11点)

- ① ぼく□、□があさんのいいつけ□よくまわり
ます。
- ② □とうさんと□にいさんとが旅行□します。
- ③ □に□そうし□、ぼくのしごとです。
- ④ □き前のデパート□がいものに行きました。

九

しづきの()にあてはまることばを、あとの□
からえらんで記入しなさい。(16点)

わたしの妹()、もつとすなおだ()よいのだ()、
わがままだ()、ほめる()つけあがる()、しが
れ()ない()、まったくこまりものだ。

し、が、て、ば、から、ど、は

十

しづきの()に、よいことばをあとかからえら
んで入れなさい。

- ① 雨がふった()道がぬかるんでいる。
- ② こんなに風がふく()よく来ましたね。
- ③ どんなにおし()戸はあかなかつた。
- ④ 勉強はした()成績はよくならなかつた。
- ⑤ 雪はふる()風も強い日でした。
- ⑥ 秋が来る()にわのかきがまっかになる。
- ⑦ 運動し()勉強したりする。

(ア)が (イ)し (ウ)たり (エ)ので (オ)のに (カ)でも
(キ)も (ク)や (ケ)と

① つぎの文の□の中に、あとのらんのことばからもっともてき当なものを選んで記号で書き入れなさい。

(1) A君は運動もうまいし、□成績もよい。
 (2) 妹は石につまづいてころんだ。□、泣かなかつた。
 (3) 昨夜はひどい雨だつた。□道はさほど悪くない。
 (4) 雨がひどくなつた。□風が出てきた。
 (5) まず、マッチをする。□、ガスのせんを開く。
 (6) 昨夜はねたのがおそかつた。□けさはねむい。
 (7) かきが、ことし初めてみのつた。□、実は少ない。

㊦そして ㊧それで ㊨そのうえ ㊩しかし

② つぎの□の中に、うしろに出ていることばの中から適當なものを選んで書き入れなさい。同じことばを二度使つてはいけません。(15点各3)

(1) それもよいが、□こつちのほうがよく。
 (2) それはそうです。□わたしも賛成しました。
 (3) 動物園へ行きましょう。□象を見ましょう。
 (4) あなたが来た。□待っていたようにみんな集まつてきた。
 (5) 昨日は雨でした。□一日じゅう家で本を読んでいます。

ては、ですから、すると、しかし、それで、
 ですが、そして

(四天王寺学園中)

③ つぎの□の中に、あとからことばをえらび、その記号を書きなさい。(9点)

ちよつと形が変わつただけです。ですから、ことばや動作によく気をつけてください。

㊦ これまでにも、けきは、いくつか勉強してきました。
 ㊧ □けきをするとき、けきを見るとき、どんな点をつかめはよいかなどは、あまり考へなかつたでしょう。
 ㊨ □そんなところまで考へて、けきの勉強をしていくのです。

㊦ ことば ㊧ ところで ㊨ しかし



四

つぎの()の中のことは、いちばん正しいものを選び、その記号に()をつけなさい。

- ① かれは歌がうまい。 () だから () したがし () そのうえ () 絵もよくかく。
- ② 待っている () から () のて () のに () 来もしない。

五

つぎの文の()に、あとのことはからよくおてはまるものをさがして入れなさい。(12点)

- ① あすは、ノートか()手帳を清めて来なさい。
- ② 国語のおさらいをすまし、()遊びに行った。
- ③ みなさんは、からだも大きいし()力もつよい。
- ④ けいたくんはいつもまじめにそうじをする。()よく先生にはめられる。
- ⑤ 空がくもつていたので、かさを持って来た。()雨はふらなかつた。
- ⑥ さあ算数をはじめましょう。()なんべーシからでしたかね。

だから・ところで・それから・そのうえ。
 または・けれども

六

つぎの()にあてはまることはを、あとからえらんで入れなさい。

- ① きょうは遠足です。()リニックスがたです。
- ② よいお天気です。()かさはいりません。
- ③ 父にしかられました。()なきはしませんてした。
- ④ 悪いことはいけません。()ぼくはつい、使つてしまいます。
- ⑤ ろうかを走ることは悪いことです。()ついで、走つてしまいます。

けれども ですから



6. Idioms and Expressions

① つぎの□に、頭・顔・首・目・鼻・口・手・腹・腰・足の中から適当なものを選んで書き入れなさい。
 また、うしろにあげてある語句の中にあてはまるものを記号で()に書きなさい。

① □をぬく…… () ⑥ □につく…… ()
 ② □をつっこむ…… () ⑦ □にあまる…… ()
 ③ □が黒い…… () ⑧ □をあらう…… ()
 ④ □をあげる…… () ⑨ □にのる…… ()
 ⑤ □が低い…… () ⑩ □がたつ…… ()

ア いやになる ① やめる ⑦ 見ておられない
 ⑤ 興たくみがある ⑧ やるべきことをやらない
 ⑨ 認められる ⑩ 関係する ⑥ だまされる
 ② あいそがよい ③ 面目がたつ

※ 補語であるが、ずいぶんよく使われていることばであるから、学習事典や参考書で調べておくと、よく解ける。

② 上のことばの意みを()の中からえらばなさい。(10点)

(1) 鼻にかける ⑦ めがね ④ じまんする ⑨ くやしい
 (2) 首をひねる ⑧ 首をまげる ① 考える ⑥ まよう
 (3) 手をやく ⑤ やけど ② こまる ③ かんたん
 (4) 足を出す ④ きようきが悪い ⑩ 予算以上に使う
 (5) 目がまわる ⑦ いそがしい ⑧ 苦しい ⑨ 楽しい

③ つぎのことばの中で、「はらくあやわらった」のはらくと同じ意味を示すものを選んで、その記号に○をしなさい。

⑦ はらが治まる ④ はらをいためる
 ⑧ はらをかくる ⑤ はらがへる [漢道中]



四

辞典で「くち」のところにひくと、つぎのようにた
くさんの意味がありました。あとの文の中で使われてい
るくちは、どの意味で使われていますか。きき当と思っ
たものの記号を、それぞれの文の「」の中に書きなさい。

△「くち」の意味 ①目、鼻などとならぶ顔面の一部。

②いうこと。あるいはことば。③出入りするところ。

④ものを出し入れするところ。またはかん、ふたの意。

⑤ものごとのはじまり、さいしよ。

①「まだよいのくちだ。②「あの人はくちが軽い。

③「ちよつと戸ぐちまで来てください。④「びんの

くちをあけてください。⑤「大きなくちをあけてねる。

〔園田学園中〕

五

つぎの上のらん文に使ってある「手」の意味
は下のらんどのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

①手ならいをする…… () ⑦方向または方角

②なべの手がとれた…… () ⑧方法や手だんのこと

③行く手に高い山が見える () ⑨うてまえのこと

④手がたりない…… () ⑩字を書くこと、習字

⑤あの手この手を使う…… () ⑪働く人のこと

⑥練習したので手があがった () ⑫持つところ

〔註〕同じことばでもちがった意味に使うことがあります。使われ方を
はつきりとらえましょう。

六

つぎのことばは、下のらんどのことばにつながりま
すか。——て結びなさい。

①耳をそばだてて、

⑦引かれる

②うしろがみを、

④ひそめる

③まゆを

⑨見えない

④人っ子ひとり

⑤さがす

⑤血まなこで

⑧とび上がる

⑥うわの空で

⑩食べる

⑦根はり葉はり

⑪聞く

⑦ つぎの上のらんのことばの意味を下のらんからさがして () の中に記号で答えなさい。

- | | |
|------------------|----------------|
| (1) かぶとをぬぐ () | ㉗ たいじようぶたと保証する |
| (2) 耳をかたむける () | ㉘ ひどくびつくりすること |
| (3) さじをひける () | ㉙ 注意を集めてよく聞くこと |
| (4) きもを冷やす () | ㉚ こうさんすること |
| (5) 頬にとろをぬる () | ㉛ わずかの間にかわってしま |
| (6) 折り紙をつける () | ㉜ はじをかかせること |
| (7) 手のうらをかえす () | ㉝ 見えみがないとあきらめる |

注意 ここにあることばは、**慣用語**です。その字の意味だけであることば、**まぎ**ありません。どんな場合に使うか、読みなれましょう。

⑧ つぎのことばと、同じ意味のことばを () からさがして、() に、その記号を入れなさい。

- | | |
|----------------|-------------|
| (1) () ぐちをこぼす | ㉞ たよらない |
| (2) () 首をかしげる | ㉟ かなわない |
| (3) () 歯がたたない | ㊱ あんのじよう |
| (4) () 思ったとおり | ㊲ 変だと思つ・考える |
| (5) () はかない | ㊳ なきことを言う |

⑨ つぎの上のらんのことばは、下のらんのどのことばにつながりますか。記号で答えなさい。

- | | | | |
|--------------|---------|--------|------|
| (1) とほうに () | ㉞ 集まる | ㉟ くれる | ㊱ 走る |
| (2) きつねに () | ㊲ つままれる | ㊳ 進われる | ㊴ 乗る |
| (3) かたみが () | ㊵ おりる | ㊶ せまい | ㊷ 二る |
| (4) 小くびを () | ㊸ かしげる | ㊹ なてる | ㊺ 切る |
| (5) 白い目で () | ㊻ とじる | ㊼ あらう | ㊽ 見る |
| (6) ぐちを () | ㊾ あける | ㊿ こぼす | ㊽ 結ぶ |

- ⑩ つぎの上だんのごとはの意味を下だんからさがして、()の中にその番号を書き入れなさい。
- (イ) () 油を売る ① なまける
 (ロ) () 耳をかたむける ② 仕事が細かい
 (ハ) () 手がこむ ③ よく聞く
 (ニ) () 目をかける ④ 世話をする
- 注意 疑問詞は覚えておく。

⑪ しつぎに腹と関係のあるいい方を集めました。あとにあげた意味に使われるものを選んで、その記号を答えのらんに入力しなさい。

- ① 腹の皮をよじる ④ 腹八分 (イ) 自腹をきる
 ② 腹の虫がおさまらない (ロ) 腹をわって話す
 ③ 背に腹はかえられない (ハ) 腹が太い (ニ) 腹をきる
 (イ) 腹を見ずかされる (ロ) 腹に一物ある
 ① 自分の気持ちをすっかりさらけだす。…………… ()
 ② つまらないことにこせこせしない。…………… ()
 ③ 今の場合そつするよりしかたがない。…………… ()
 ④ 自分の考えていることをさとられてしまう。… ()
 ⑤ ひかえめにもものごとをする。…………… () [海中]

⑫ つぎのごとはは、どんな意味で使われていますか。

- () に書きなさい。
- (1) 血まなこになる。 ()
 (2) やぶからぼう。 ()
 (3) 耳にたこができる。 ()
 (4) にえきらない。 ()
 (5) べらす口。 ()
 (6) 鼻にかける。 ()

⑬ つぎの語くの意味で、よいものに○をしなさい。

- ① 冷たい人
- 手や足が冷たい人のこと。
 - なさけぶかくない人のこと。
 - 体温がひくい人のこと。
- ② 手にあまる
- 手にもつということ。
 - いっぱいということ。
 - しまつがつけられないこと。

十四 つぎの□の中に、「あたま・かお・くび・め・はな・くち・て・はら・こし・あし」など、からだにかんけいあることはを入れ、()に、下の意味のあてはまるものの記号を入れなさい。

- (1) □をぬく……()
- (2) □につく……()
- (3) □にのる……()
- (4) □をつっこむ……()
- (5) □にあまる……()
- (6) □がつぶれない……()
- (7) □がたかい……()
- (8) □がくろい……()
- (9) □をあらう……()

- ㉑ いやになる
- ㉒ やめる
- ㉓ わるだくみがある
- ㉔ かんけいする
- ㉕ じまんする
- ㉖ だまされる
- ㉗ めんぼくがたつ
- ㉘ やるべきことをやら
- ㉙ ない
- ㉚ 見ておられない

十五 つぎのことはの意味にあてはまるものをあとのら
んから選んでその記号を記入しなさい。

- (1) 気がおけない ()
- (2) 寒心にたえない ()
- (3) まゆを開く ()
- (4) 尾を引く ()
- (5) 手に落ちる ()
- (6) 話に花がさく ()
- (7) 歩がわるい ()
- (8) かたて風を切る ()

- ㉑ おそれてそつとすること。
- ㉒ その人のものになる。
- ㉓ さつそうといばっている。
- ㉔ わりがわるい。
- ㉕ それからそれへと語がはずんで発てんすること。
- ㉖ ものここのなごりがあとあとまで残ること。
- ㉗ 心配ごとがなくなって晴れ晴れすること。
- ㉘ 気がねがないこと。
- ㉙ もつともよく似ている。
- ㉚ 世間に対してめんぼくがなく、はばかれる。

十六 つぎのことはの意味を覚えておきましょう。

十七 つぎのことはの——線をひいた部分は、あとの意味のどれにあたりますか。記号で答えなさい。

- (1) 声をこぼした……()

- ㉑ 命を絶つ。
- ㉒ 死なせる。
- ㉓ おさえとどめる。

- ㉔ 役に立たなくなる。
- ㉕ アウトにする。

- (2) 声をつぶす……()

- ㉑ おさえつけこわす。べちやんにする。

- ㉒ ほろぼす。
- ㉓ だめにする。

- (3) 知っている人がない……()

- ㉑ わかる。さてる。
- ㉒ 気がつく。
- ㉓ つきあいがある。

七

つぎの見出しのごとばを、正しく使つてある文を①～③の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号に○をつけなさい。

たんねんに

- ① わたしは雨がふるのをたんねんにながめました。
- ② わたしは新聞をすみからすみまでたんねんに読みました。
- ③ わたしは先頭をたんねんに走りました。

ひつきりなしに

- ① 朝からはんまでひつきりなしに雪がふつた。
- ② かれはひつきりなしに働いています。
- ③ このあたりは人通りもなく、ひつきりなしにさびしい。

ようしゃなく

- ① がらだが小さいのでようしゃなく負けた。
- ② 太陽はようしゃなくキラキラと照りつけた。
- ③ なにもようしゃなく旅に出たので旅先でたいへんこまった。

効果

- ① 自分でできるだけの効果をつくりました。
- ② おじさんの家のこのまには、りっぱな効果がかけてある。
- ③ 薬の効果があつたのか、熱がさがりました。

補給

- ① おとうさんが今月の補給をもらつて帰られました。
- ② 雨がたくさん補給したので、道が悪くなった。
- ③ ヘリコプターで食糧を補給しました。

〔広島大付属東塾中〕

八

つぎの()の中に、あとからことばをえらび、その記号を書きなさい。

- ① うすぐらい森の中に() 太陽の光りがさしてくる。
⑦ おだやかに ④ かすかに
- ② () 便利なものはひとりてにスイッチがきれることだ。
⑦ ちらに ④ きっと
- ③ 海にいこうと、() すすめられた。
⑦ わすかに ④ しきりに
- ④ きんのうの雨で、にわのしばふが() ぬれている。
⑦ しつとりと ④ すっかりと
- ⑤ すずしい風が() ふいてきて、とても気持ちがい。
⑦ ちつちと ④ そよそよと



十九

つぎの文の()内のことはのうち、もっとも適当と思うものを、それぞれ一つずつ選びなさい。

深い青空には、春の国から生まれて来たかと思われる白

雲が山のふところから ① ^⑦ぼつかり
④ うっかり 顔を出す。
⑤ ちゃっかり

② ^⑦ささやかな
④ やわらかな 日差しが窓いっぱいふりそそぐ。
⑤ すこやかな

緑先の雪が ③ ^⑦うららかな
④ かすかな 音をたててくずれる。
⑤ たからかな

風は ④ ^⑦また
① もつ うすら寒い。 ⑤ ^⑦けれども
② また ④ だから 家々の窓も
⑤ そして

障子もいつせいにあけはなされた。

☒ ことはの意味の問題には、一つのことはの意味をいくつも書いて、その中から正しいものを選びさせる問題がたいへん多い。早がでんしないで、ゆくりゆくりから○じるしをつけることがたいせつである。

二十

つぎのことはのわけを()の中から選んで○をつけなさい。

- | | |
|--------|------------------|
| 1、血まなこ | ア いちばん早く走ること |
| | イ まじめに勉強すること |
| | ウ いっしょうけんめいになること |
| 2、みどり子 | ア 緑色をしたことも |
| | イ 四、五才までのことも |
| | ウ 小学校六年ぐらいのことも |
| 3、やぶから | ア のろのろとしたこと |
| ほうに | イ 大きな声で話すこと。 |
| | ウ 思いがけないことがおこること |

二十一

つぎのことはは、下のどの語をたとえるものとして、もっともよいてしょうか。下のよいものをえらんで()にその記号を書きなさい。

- | | | |
|------------------|------|------|
| (1)りんごのような() | 1 寺 | 2 まゆ |
| (2)ちみじのような() | 3 ひげ | 4 荷物 |
| (3)かみなりのような() | 5 手 | 6 ほお |
| (4)三日月のような() | 7 足 | 8 うて |
| (5)山のような() | 9 歌 | 10 声 |
| (6)はりがねのような() | | |
| (7)まつの木の根のような() | | |

一

つぎに名高い「ことわざ」が十句あげてあります。○の中にあとにあげた五つの種類の番号を入れなさい。

- (イ) ○朱にまじわれれば赤くなる。
- (ロ) ○七ころび八起き。
- (ハ) ○ほねおり根のくたびれもうけ。
- (ニ) ○人をみたらどろぼうと思え。
- (ホ) ○かせぐに追いつくびんぼうなし。
- (ヘ) ○雨だれ、石をうがつ。
- (ニ) ○はりのあなから天のぞく。
- (ケ) ○かべに耳あり、しようじに目あり。
- (ケ) ○論よりしようこ。
- (イ) ○負けるが勝ち。

- ① 用心するように教えたもの。
- ② 努力するように教えたもの。
- ③ にんたいするように教えたもの。
- ④ 悪い友だちと遊ばないように教えたもの。
- ⑤ その他

〔広島大付属中〕

二

つぎのことわざのわけが()の中に書いてあるが正しいと思うものには○、まちがっていると思うものには×をつけなさい。

- ① 子どもは風の子 () (子どもはよくかせをひくから 気をつける)
- ② 時は金なり () (時は金のようにたいせつなもの)
- ③ ぬかにくぎ () (どんなに注意してもきめがない)
- ④ 急がばまわれ () (急ぐときにはあちこちとびまわれ)
- ⑤ けがの功名 () (思いもしなかつたてがらをたてる)
- ⑥ 五十歩百歩 () (五十歩か百歩を元気で歩け)
- ⑦ ねこをかぶる () (ねこをせなかにせおう)

※ 答えはとも、はいつているのでそれを知ること。

三

つぎのことわざの中からあてはまる語を下から選んで、()の記号で書き入れなさい。また()の中には、そのことわざにあてはまる意味をあとの中から選んで、()の記号で書き入れなさい。

- (1) とらぬ()の皮さんよう。……………() (ウ) うま
- (2) 火中に()を捨う。……………() (イ) ねこ
- (3) 能ある()はつめをかくす。………() (ウ) たぬき
- (4) ()かぶる。……………() (エ) たか
- (ア) 力のあるものは、むやみに実力をあらわさない。
- (イ) 本性を包みかくして、知らん顔をする。
- (ウ) きげんをおかして行なう。
- (エ) きまってもいよいよ米をあぐにする。〔関西学院中〕

四

つぎの(1)から(5)までのことわざと同じ意味をもつことわざを下の(ア)から(エ)までの中から選び、その記号を()の中に書き入れなさい。

- (1) さるも木から落ちる () (ウ) 弱りめにたたりぬ
 - (2) 朱に交われれば赤くなる () (イ) 火のない所にけむりはたぬ
 - (3) 後かいは先にたたず () (ウ) 弘法も筆のあやまり
 - (4) まかぬ種ははえぬ () (エ) 人は善悪の友による
 - (5) なきつつらにはち () (イ) ころはぬ先のつえ
- 〔高輪中〕

五

つぎのことわざの正しい意味を下のらんから選んで、記号で答えなさい。

- (1) 泣き面にはち () (ウ) ききめがうすい。
- (2) 音頭をとる () (イ) 悪いことが重なっているところ
- (3) 焼け石に水 () (エ) さらさら悪いことが重なること。
- (4) 登台もと暗し () (ウ) 手近なことは案外わからない。
- (5) 石橋をたたいてわたる () (イ) 用心の上にも用心すること。
- (ウ) 大ぜいをみちびくこと。

⑥ 上のらんのことわざと、意味のにかよったものを下のらんから選んで、記号を書き入れなさい。

(1) さるも木から落ちる… () ㉗ 朝りめにたたりめ
 (2) 念には念を入れよ… () ㉘ こうかいは先に立たず
 (3) こころはぬさきのつえ… () ㉙ 弘法も筆のあやまり
 (4) 月とすつぼん…………… () ㉚ どうふにかすがい
 (5) なきつらにはち…………… () ㉛ つりがねにちようちん
 (6) ぬかにくぎ…………… () ㉜ 石橋をたたいてわたる
 (7) まかぬ種は生えぬ…………… () ㉝ 火のない所にけむりはたたぬ

⑦ つぎのことわざは、どんな意味ですか。正しいものに○をつけなさい。

① 急がばまわれは ㉗ 急ぐときは目が回るようにいそがしい。
 ㉘ 急ぐときはきげんな近道よりも、安全なまわり道を通ったほうがかえって速い。

② さるも落ちるは ㉗ ゆだんすると失敗するということ。
 ㉘ さるが木からすべり落ちること。
 ㉙ さるを木の上からたたき落とすこと。

③ かべに耳ありは ㉗ かべに耳をおしつけて聞くこと。
 ㉘ かべにマイクロホンをとりつけること。
 ㉙ ないしょのつもりでも、もれる。

⑧ つぎのことわざの () の中にあとの□の中かから、ことばを選んで、正しく書き入れなさい。

㉗ 千里の速も () よりはじまる
 ㉘ ちりもつもれば () となる
 ㉙ 立つ鳥は () をにこさず
 ㉚ 火のない所に () はたたぬ
 ㉛ 二階から () ぐすり

たすき	火事	けむり	山	あと	目
上	花	一歩	カ		



九

上のことわざと、同じ意味の下のことばを——せんてむすびなさい。

- | | |
|------------|------------------|
| ① 石の上にも三年。 | ・ (ア) 失敗にくじげない。 |
| ② 七ころび八起き。 | ・ (イ) しんぼうがたいせつ。 |
| ③ なまづらにはち。 | ・ (ウ) あまやすい。 |
| ④ うり二つ | ・ (エ) よくにている。 |
| ⑤ 三日ぼうず | ・ (オ) 悪いことが重なる。 |

十

上のことわざと、同じものを下からさがし、その記号を()に記入しなさい。

- | | |
|--------------|------------------|
| ① () 急がばまわれ | (ア) おとなしそうにみせかける |
| ② () 五十歩百歩 | (イ) 人はそれぞれにちがう |
| ③ () 十人十色 | (ウ) あまりちがわない |
| ④ () ねこをかぶる | (エ) あせつてはいけない |

十一

つきのことわざの□の中に漢字、○の中にななを書き入れて、まとめたことわざにしなさい。

- (1) 正直は一生の□ (2) 暑さ寒さも○○○まて
- (3) ○○○をすればかげとやら
- (4) □起きの家には福きたる
- (5) わが□をつねつて人のいだしをくれ

十二

つき()の中に数字をあらわすかん字を一字記入して、かん全なことはをつくりなさい。

- (11) ()石二鳥。 (12) 石の上にも()年。
- (13) ()差万別。 (14) ()里の道も一歩から。
- (15) ()年ひとむかし。 (16) ()人よれば文珠の知恵。
- (17) 三三五()。 (18) ()聞は一見にしかず。
- (19) ()まい吉を使ふ。
- (20) 一寸の紙にも()分のたましい。 [愛読家願也]

8. Politeness

(一) つぎの文で、ていねいな方のじゆんに、番号をつけなさい。

(ア) 先生がおいてになりました。
 先生が来ました。
 先生がいらっしゃいました。

(イ) 学校に行った。
 学校にいらっしゃいました。
 学校に行きました。

(二) 常体の文にはA、敬体の文にはBの記号をの中に入れなさい。

① () わたしは、勉強をしていた。
 ② () わたしは、本を読んでいた。
 ③ () 雨は、すっかりやみました。
 ④ () 雨は、すっかりやんだ。

解説 ①はA、②はB、③はB、④はAである。文の終わりのまじきは見ればすぐわかる。「いた」「やんだ」が敬体であり、「いました」「やみました」が常体である。

(三) つぎの(一)の中の、正しいほうに○をしなさい。

(1) こめんどさい。 (ア)父 (イ)おとうさん は、 (ウ)おるす (エ)るす ですが、とこ (カ)行った (キ)行かれた のですが。

(2) (ア)おとうさん (イ)父 は、さんぽにてかけたのですが、まだ (ウ)帰りません (エ)お帰りになりません。



④ つぎの「上」のらんはふつうの言い方、「中」のらんは尊敬したい方、「下」のらんはへりくだった言い方です。「する」の例にならって関係のあることは各「中」と「下」のらんからさがし、記号で書きなさい。

「上」 中 下	「中」		「下」	
① する	①	②	③	④
② 言う				
③ 見る				
④ 会う				
⑤ 行く				
⑥ 取る				

「中」		「下」	
①	おおっしゃる	③	お見たいです
②	なさる	④	拝見する
③	おいてになる	⑤	申しあげる
④	お会いになる	⑥	参る
⑤	ごらんになる	⑦	お目にかかる
⑥	お取りになる	⑧	お取りする

⑤ つぎの二はを、例にならって、ふつうのいい方になおしなさい。

例 お出しめす (厚)
おながみ (薄)

- | | | | |
|---|---------|--|-----|
| ① | お出かけになる | | () |
| ② | 申します | | () |
| ③ | うけたまわる | | () |
| ④ | おさとう | | () |
| ⑤ | 夏です | | () |
| ⑥ | いただく | | () |
| ⑦ | めしあがる | | () |
| ⑧ | いらっしゃる | | () |
| ⑨ | ご案内 | | () |
| ⑩ | まいります | | () |

敬語には、つぎのような場合がある。A相手の動作や物に「を」をつけていう。B特別なことばを使う。C相手の動作に「れる」「られる」をつける。D自分のことをへりくだるという。これを覚えておくと、ふつうのいい方になおせる。

六 つぎのことばの終わりに「れる」「られる」をつけてそ
んけい語のいい方になおしなさい。

(れい) 燈をかく (燈をかかれる) 手術を受ける (手術を受けられる)

(1) 茶をのむ	(2) 道をきく	(3) パンを食べる
(4) 山に登る	(5) 話をする	(6) 名まえをよぶ
(7) えだを折る	(8) 家を出る	(9) 木を植える
(10) 家をかかわる	(11) 手をたたく	(12) 飛行機に乗る
(13) 着物をきる	(14) 火をつける	(15) くぎを打つ

七 つぎのことばの終わりに「—」ななる「—」になる
をつけて、あいてにそんけいの気持ちをあらわすいい方
になおしなさい。

(れい) ちゅうしゃをする (ちゅうしゃをなる) 本を読む (本を読みなる)

(1) 手紙を書く	(2) 車に乗る	(3) ピアノをひく
(4) 歌をつたう	(5) 旅をする	(6) はさみで切る
(7) 花を生ける	(8) 返事をする	(9) 自分で調べる
(10) 農業をする	(11) 病気になる	(12) 声を出してわらう

八 つぎのけんそん語の—線をひいた部分をかえ
て、ふつうのいい方になおしなさい。

(れい) わたしが申しあげる。(わたしが言う)

(1) そうじをいたします。()
(2) 絵を拝見させていただきます。()
(3) 急いでまいります。()
(4) おみやげを <u>ら</u> ょうだいました。()
(5) おいしく <u>い</u> ただきました。()

注意 自分の言うのことを言う場合は「い」の語は使いません。



九

つぎの「線」をひいたことは、うやまいの意味をもったとく別のことはいいなおしなさい。

(れい) 「そろそろ寝ようか。」という。(おしやる)

- (1) みかんを食べる () (2) 家におる ()
 (3) 七時にねる () (4) 病気で死ぬ ()
 (5) えい画を見る () (6) 着物を着る ()

十

つぎは「敬語」について書かれた文の一節です。この文を読んで、()の中のいちばん適當と思うものの記号を○でかこみなさい。

「Kさん、立山がたいへん低く見えるね。」とSさんが言った。

「夜は、山は低く見えますよ。」Kさんは縁側にこしかけながら答えた。

右の文を読むと、私たちは、SさんとKさんとの上下の関係をだいたい知ることができる。それは、Sさんのことばと、Kさんのことばとのちがいにによるのである。すなわち、SさんはKさんに向かって、とくに「ていねいなことば」を使って、(7)ある (8)いる (9)いない) けれども、KさんはSさんに向かって、「ていねいなことば」づかいをして、(7)ある (8)いる (9)いない) からである。もしこの対話の大部分を

「Kさん、立山がたいへん低く見えますね。」

「夜は、山は低く見えるよ。」

とかえれば、SさんとKさんとの関係は (7)親しく (8)上下に (9)逆に) なる。つまり (7)よ (8)ます (9)ね) ということが用いられているかいないかによって、このちがいが生まれる。

十一

生徒のことはづかいて、正しいものは()、あやまつて
いるものには×を()の中に書きなさい。

- 先生「きよの父兄会におかあさんは見えますか」
- 生徒「いいえ、母は見えません」 ① ()
- 先生「二病気ですか」
- 生徒「ええ、一週間ほどねています。」 ② ()
- 先生「どんなようすですか」
- 生徒「もう心配はないと医者がお申しておられます。」 ③ ()
- 先生「お大事にされるようお伝えください。」
- 生徒「はいそのように申し伝えます。」 ④ ()
- 先生「あの問題を小田先生にたずねましたか」
- 生徒「ええ、おたずねしました。」 ⑤ ()

十二

敬語の使い方のうえから考えて、つぎの各組の()の
ことばのうち、正しいと思うほうを記号で答えなさい。

- (1) ①めづらしくはないかも知れませんが、たくさんいた
④めづらしくはないかも知れませんが、たくさんめ
しあがつてください。
- (2) ①どうを自由にこらんください。
②どうを自由にこらん見ください。
- (3) ①うちの兄に、ちよつと会つていただけませんか。
④せんかの兄に、ちよつとお目にかかつていただけま
- (4) ①わたしの母が、よろしくと申しました。
④わたしのおかあさんが、よろしくと申しました。
- (5) ①先生によるこんでいただけると思いますので、お
④先生がせいでいただきます。お知ら



十三

きよしさんのうちへお客さまがたずねてこられました。きよしさんが、げんかんに出てお話ししています。きよしさんの話し方がよいところには○、そうでないところには×をしなさい。「お」はお客さまへ、「き」はきよしさんへです。

お「ごめんください。」
 き()「いらっしゃい。」
 お「こちらは、山本さんのおうちですが。」
 き()「はいそうです。」
 お「あの、おとうさんはおいてですか。」
 き()「いま、会社へいっていらっしゃいます。」
 お「そうですか、ここからおとうさんの会社までは遠いのですか。」
 き()「そう遠くはないよ。」
 お「おかあさんはいらっしゃいますか。」
 き()「はい。」
 お「わたしは川村というものです。大阪の。おかあさんにお目にかかりたいのですが、つたえてくれませんか。」
 き()「おまやくさん、ちよつとまってて、おかあさんをすぐよんできますから。」

十四

つぎの文を読んであとの問いに答えなさい。

㉑ おいそがしいでしょうが、きょうじゅうにお願いいたします。

㉒ いそがしいだろうが、きょうじゅうにたのむ。

㉓ おいそがしいでしょうが、きょうじゅうにたのみます。

㉔ いそがしかろうが、きょうじゅうにたのむぞ。

㉕ いそがしいでしょうが、きょうじゅうにお願いします。

(1) いちばんていねいな方はどれですか。ふ号で答えなさい。

(2) いちばんらんぼうない方はどれですか。

(3) 「おいそがしいでしょうが、きょうじゅうにたのみます」といういい方は正しいでしょうか。正しくないとするはなぜいけないのでしょうか。

9. Miscellaneous (Sentences)

① つぎの文の()の中に、あとのことばをえらび、その記号を書きなさい。(20点)

① エジソンは、天才とよぶべき()である。()そのエジソンで()ちよつとしたぐうせん()てきたものは()ないといっている。

㉗ ⑦ しかし	㉘ ⑧ 一つも	㉙ ⑨ 人
㉚ ④ さえも	㉛ ⑥ など	

② スポーツの第一の()は、たしかに勝敗では()。競技である。()身につけたその()をきそいあうのが()のである。

㉜ ⑦ わざ	㉝ ④ 目的	㉞ ⑨ 目しろ
㉟ ⑤ たのしい	㊱ ⑧ ない	

③ つぎの文の中に、あとのことばを入れなさい。

まだ、小さいころのわがままが残っている()。たしかに現在のぼくは、勉強でも、人の言うことなすことに文句をつけることが()。……ぼくひとりの考えでおし通すことが正しいとはいえない()。これからは糧所と言われる点については、よく考えて、直すべきところは直していく()。しかし、りくつつばいという性格も、自分の考えを進めるうえにはたいじなものだから、いい牛かしかたができそうに()。

㊲ ⑦ ようだ ㊳ ④ つもりである ㊴ ⑨ 思う ㊵ ⑤ 多い
㊶ ⑧ のかもしれない

三 つぎの文の () の中にあてはまることばを、あとのらんから選んで書き入れなさい。

①あの人なら () まちがうことはない。

② () 雨がふったら速足は中止します。

③けがをしたそうだが、 () 死ぬことはあるまい。

④歩くかっこうが、 () ベンギンのようだ。

⑤そういうわけなら、 () 雨がふっても必ず行く。

⑥あの人のことだから () やりあけているだろう。

⑦あれだけ言っておいたのに () やってはいない。

[まるで まさか まだ けっして たとえ きこともしも]

四 つぎの文の () の中に、あとの [] の中から適当と思われることばを選び、その記号を書き入れなさい。

①おまえのやったことは () 許せない。

②父は () あすかえるでしょう。

③かれのやることは () 機械のように正確だ。

④横田君なら () そんなことはしないだろう。

⑤ () 悪くいわれようとも、考えをかえない。

[㊶まさか ㊷まるで ㊸かなり ㊹けっして
㊺たぶん ㊻こく ㊼たいそう ㊽たとえ]

五 つぎの①～④の文の () の部分にどんなことばを入れたらいいでしょうか。れいにならってそれぞれのことばを書きなさい。(25点)

れい) どうか()。

①まるで雨でもふっている () 。

②さそ、おこまりのこと () 。

③まさか、こんなにおそくは来 () 。

④あのときはさっぱり書け () 。

[同志社香里中]



六 つぎの文の□の中に合うことばを入れなさい。

- ① ひこうきがと□たちました。
- ② ひこうきがと□のを見ていました。
- ③ ひこうきがと□なくなつたのはいつだろう。
- ④ ひこうきがと□ば、弟は大よろこびします。
- ⑤ ひこうきがと□ばよいと思う。
- ⑥ ひこうきがと□まわっています。

解答 活用例である。①とび ②とぶ ③とは ④とべ ⑤とべ ⑥とび と活用する。

七 つぎの文のうち、倒置文を、主・述の位置の正しい文にしなさい。

- (ア) うわあ、大きなあ、あの汽船は。
- (イ) ふつて来たぞ、大つぶの雨が。
- (ウ) まぶしいなあ、あの光。
- (エ) とんている。とんている。無数の赤とんぼが、すすい、すすい。

解答 (ア)うわあ、あの汽船は大きなあ。(イ)大つぶの雨がふつて来たぞ。(ウ)あの光まぶしいなあ。(エ)無数の赤とんぼがすすいすすい、とんている。とんている。

八 つぎの文を「相手をやさそう文」になおすため□のところに、あてはまることばを書き入れなさい。

- ① いっしよに海へ行□
- ② あの店でくだものを買□
- ③ 十三時一分の汽車に、乗□
- ④ デパートの食堂で、食事をし□
- ⑤ このぞうきんで、ろうかをぞうじ□

九 つぎの文で、今のことをいっている文には○、すぎ去つたことをいう文には×、これからのことをい

- ① () とてもさむい日でしたね。
- ② () もうじき春がやってくるでしょう。
- ③ () 食事をしていきます。
- ④ () 学校から帰るときです。
- ⑤ () あすは、雨がふるでしょう。
- ⑥ () 東京へいきました。



十

つぎの せんのことばは、どんな意味で使
 っておりますか。□からよいものをえらんで()
 に記入しなさい。

- (1) 三人は同じやとやにとまりました。()
- (2) 汽車がガタンといってとまりました。()
- (3) おなかのいたみが、とまりました。()
- (4) すずめが竹にとまりました。()

㊦動かなくなる ㊧しなくなる ㊨ねる ㊩やすむ

十一

つぎのじゆく語は、どんなときに使ったらよいてしよ
 う。番号を、あとの文の()に入れなさい。

- ①注意 ②位置 ③市場 ④関係 ⑤遠近 ⑥会話
- ㊦↓夕方、母にたのまれて()へ買い物に行った。
- ㊧↓花と虫は、深い()をもっている。
- ㊨↓学生をするときは()を考えることがたいせつだ。
- ㊩↓山中くんのセンターは、()がわるい。

十二

次のかん字の音読みを右に、くん読みを左に
 書きなさい。

音() () () () () () () ()

冬 色 表 寺 形 神 頭

くん() () () () () () () ()

音	(とう)	(しき)	(ひょう)	(てら)	(かたち)	(かみ)	(かぶ)
冬	色	表	寺	形	神	頭	
くん	(ふゆ)	(いろ)	(おもて)	(てら)	(かたち)	(かみ)	(かぶ)



十三

つぎの二つの文をくらべて、正しく書けているほうに○をつけなさい。(10点)

- ① () あしたのミルクは、おいしかったと思つてしよう。
 () きこのうのミルクはとてもおいしかった。
 ② () こののりは、かたくなりそうてだめでした。
 () こののりは、かたくなりそつてす。
 ③ () この本は、とてもおもしろいね。
 () この本は、おもしろかつたと思われた。
 ④ () やつと、算数の問題がとけました。
 () やつと、算数の問題がとけませんでした。
 ⑤ () 秋の虫が、いい声でなきました。
 () 秋の虫が、いい声でなくがもしれました。

十四

つぎの文を読んで、ことばづかひの正しいものと、正しくないものを見分け、正しいものには○、正しくないものには×を、番号の上につけなさい。(20点各2)

- (1) 雪はかなりふる。しかし寒気は強い。
 (2) さくらのさくころともなれば、こちらもあたたかくなる。
 (3) よく知っていながらはつきり答える。
 (4) 成績は大事であるが身体は大事である。
 (5) ひまがないのによく読書する。
 (6) あまりのはかばかしさに二の句がつけぬ。
 (7) 頭がいたくてなかなか起きれなかつた。
 (8) かれはけつして正しいとは思わないだらう。
 (9) あわてたので字が書きそこなつた。
 (10) そんなしらしらしいことがよくいえたものだ。〔雑中〕

- ① つぎの文章を読んで、問いに答えなさい。
- 「古事記」という書物は、日本でいちばん古い書物で、今からおよそ千三百年ほどまえに書かれたものですが、その中にも、「田」「池」「山」「川」「草」などということは使われています。② () 「小学校」とか「電球」とかいうことは、そういうむかしの書物には出てきません。③ () 「小学校」ということは、「小学校」という制度ができてから新しく知ったことばで、「電球」ということは、「電球」という物ができてから知ったことばなのだからです。④ これらの制度や物ができたのは、ごく近年になってからのことです。
- (問1) ①のそれは、何をさしていますか。()
- (問2) ②のことは、どんな説明をふくんでいますか。わかりやすく説明しなさい。()
- (問3) ③の()の中に入れることばを、つぎから選んで、その記号を、文中の()の中に書き入れなさい。
- ①そして ②それから ③けれども
- (問4) ③のそういうということばは、何をさしていますか。()
- (問5) ④の()の中に入れることばを、つぎから選んで、その記号を文中の()の中に書き入れなさい。
- ①だから ②そのうえ ③なぜなら
- (問6) ④のこれらということばは、何をさしますか。()
- (問7) むかしは、なぜ「小学校」とか「電球」ということばは使われなかったのですか。()

三

つぎの文章のうち、①から⑤のことはについて、あとの問いに答えなさい。

鉄道や、自動車が発達するにしたがつて、大きいトンネルがほられるようになり、今では道路・鉄道・上水道・下水道・水力発電用水路・電線・ガス管などのトンネルがつくられている。

世界でいちばん断面の大きいトンネルは、アメリカのエルバ・フエナ島にほられた高さ十八メートル、はば二十四メートルの二階だての自動車道路で、世界最長のトンネルは、アメリカのハンチントン湖の水路トンネルである。

① 右の文章の「したがつて」と同じ意味に使われているものを、つぎから一つ記号で選びなさい。

㉗ 村の習慣にしたがつておまつりには人をまねく。

㉘ 年をとるにしたがつてこしがまがった。

㉙ 先生にしたがつて動物園の門をくぐった。

㉚ 兄弟は助け合わなくてはならない。したがつて、たがいになかよくしよう。

② 「水力」ということは「水」「力」という二つの語が集まってきています。そして、「水」「力」にある種の関係がなりたっています。上の語と下の語とが

③ 右の文章の「いちばん」ということはの使い方と同じ使い方のものを、つぎから一つ記号で選びなさい。

㉗ 発電 ㉘ 不利 ㉙ 山道 ㉚ 左右

㉛ ぼくの受験番号はいちばんである。

㉜ 兄と、しょうきをいちばんとしました。

㉝ これがいちばん美しい絵です。

㉞ むずかしいが、いちばんやってみようか。

④ 「高さ」ということは、「高い」ということはがもとになっています。このようなかわり方てきている語をつぎから一つ記号で選びなさい。

㉗ まわる ㉘ 洋服 ㉙ 子ども ㉚ 厚み

⑤ 「最長」ということはの反対の意味のことはを漢字二

字で書きなさい。



(三)

つぎの文章を読んで、問いに答えなさい。

い物工場では、ものすごい火花がばちばちとふき出し、
 どちらにとけた鉄が、い煙の中へ注ぎこまれている。
 工員さんは鉄仮面のような物を顔に当て、きらきら光る
 ほのおを受けて働いている。ここでは、自動車に使うい
 物の部品を作っているのだ。向こう側のたん造工場から
 は、だーん、だーん、だん、だーんと、大地でもさける
 ような、ものすごい音が聞こえてくる。わたしたちは、
こんくりーと道路を通つて、その工場へ近寄つてみた。
そこには、せの高い織機が立ちならんでいて、すごい音
 をたてて活動している。台の上には、まっかな鉄が置いて
 ある。それを、大きなはんまーが自動的にたたきつけ
 ながらきたえている。ここでは苗車や車じくを作ってい
 るのだ。「きーん、きーん」わたしたちはつぎの工場へ
 向かつていった。

(問1) この文章にはカタカナで書いたほうがよいところ
 が五つあります。それをさがして、つぎの()の
 中に書きこみなさい。

- ① () ② ()
 ③ () ④ ()
 ⑤ () ()

(問2) 文の中の①ここではのここは、どこのことですか。
 ()

(問3) 文の中の②そこにはのそこは、どこのことですか。
 ()

(問4) 作者たちが見学した工場は、どことして、そこ
 では何をつくっていましたか。
 ()

(問5) やがましいのは、どの工場ですか。
 ()

(問6) 目のさめるような工場は、どの工場ですか。
 ()

メモ カタカナで書くときは、**外来語**と**擬音語**がある。だから
 (問1)の問題では、どれが外来語、どれが擬音語か
 を見つけるとよい。
 また、(問2)(問3)などは、文中のどのことばをさがして
 いるかを見つかる問題であるが、「ここ」「そこ」は、**代名**
 のたいせつなところを見つけて出し、つないてみると、何を
 だしているかがわかるものである。



174

文章を読んで、問いに答えなさい。

① () 時代の有名な ② () 松尾芭蕉は旅するのが好きでした。長い旅を続けているあいだには、いろいろな苦勞や災難に出あいましたが、③ それをのりこえることによつて人間的にも成長するとともに、芭蕉の芸術は一級と高められていったのです。かれの作品の中でも、④ () は奥羽・北陸地方を旅行したときの旅行記で他に見いだすことのできないすぐれた内容を持ち、かれの多くの旅行記中でも最大の力作と考えられています。

旅に病んでゆめは枯野をかけめぐる
右の句は、かれの辞世の句として伝えられています。うつらうつら見るゆめの中にも、なお旅に、詩に、心をむけている芭蕉の気持ちは、われわれに深い感動をあたえずにはおかないでしょう。

(問1) ①にあてはまる時代の記号を○でかこみなさい。

- ⑦ 鎌倉 ① 江戸 ② 明治 ④ 平安 ⑤ 奈良

(問2) ②にあてはまることはを選び、その記号を○でかこみなさい。

- ⑦ 小説家 ① 俳人 ② 劇作家 ⑤ 歌人

(問3) ④にあてはまる作品の記号を○でかこみなさい。

- ⑦ 坊っちゃん ① おらが春 ② 奥の細道 ⑤ さらしな日記

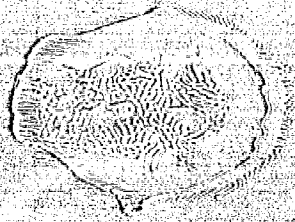
(問4) ③は何をさしていますか。「 」

(問5) 芭蕉の芸術はつぎのとれですか。

- ⑦ 和歌 ① 俳句 ② 自由詩 ⑤ 物語

注意 文学の歴史を知っておくとよい。・季語は「拙野」である。

解答 (問1) は① (問2) は① (問3) は② (問4) はいろいろ
な苦勞や災難 (問5) は②



五

文章を読んで、問いに答えなさい。(各点各5)

ペスタロッチが貧しい子どもやみなし子たちのためにつ
くす努力は一生続いた。かれはこじ院を作り、小学校の
教師をつとめ、貧民学校をおこし、また、その間に、多
くの書物を書いた。そのために、身をけする思いをした
(あ) 最後まで志を曲げなかった。ふぶきの道にも似
たつめたい道をかれは(い)。一八二七年の冬、かれは、
最初にじせ、ん学院を開いた思い出の土地で八十二才の一
生をどじた。かれこそ愛に生きぬいた教育者として、今

- (う) 全世界の人々からあおがれている。また、この教
育の方法は、子どもたちの経験を通して学ばせる新しい
やり方であった。実物を観察させて生きた知識をえさせ
たり、自分でくふうして物を作らせたりした。そうして
子どもたちに、自分から学ぼうという心をおこさせた。
(え) かれは、世界の教育の進歩にも大きな貢献を残し
たのである。

(問1) 文中の()の部分に、つきからそれぞれもつ
ともふさわしい語句を選び、その記号を○でかこみな
さい。

- あ ①から ④が ⑥のに ⑤ので
い ⑦歩み続けるのである ⑧歩み止めたのである
う ⑨歩み急いだのである ⑩歩み続けたのである
え ⑪より ⑫まで ⑬なお ⑭さらに
⑮そこで ⑯だのに ⑰こうして ⑱だから

(問2) ペスタロッチの新しい教育方法はどんな方法で
すか。文中のことばを使って二十字以内で書きなさい

(問3) 右の文章では、ペスタロッチはどんな人だとい
なさい。文中のことばを使って十字以内で書き
なさい。

(問4) ペスタロッチの教育の方法によって、子どもた
ちは、どういふふうにかわったでしょうか。つきから
もつともふさわしいものを選んでその記号に○をつけ
なさい。

- ① 実物を観察して生きた知識をえる。 ② 自分から学
ぼうとする心をおこす。 ③ 自分でくふうして物を作
る。 ④ かれの愛情にこたえるようになる。



六

文章を読んで、問いに答えなさい。

小さいころのぼくは、強情で、わがままだった()。町を歩いていると、何かほしい物が目につくと、その店の前を、動かないで、母をてこずらせた()。品物ばかりでなく、なんでもじぶんの思いどおりにならないと大声を出して、うちの者にくっつかかると()。これはぼくが未っ子で、しかも、すぐ上の兄と六つもちがっていたため、みんなから「ひろぼう、ひろぼう」とあまやかされて育ったためらしい。

(問1) 文中の()の中に、つぎのことはて適當するものの記号を書きこみなさい。

- ㉠言われる ㉡らしい ㉢そうだ

(問2) 作者が、強情で、わがままな子になったのは、どうしてですか。

(問3) この文章に題をつけるなら、つぎのどれがよいでしょう。○をつけなさい。

- ㉠ぼくの意見 ㉡ぼくの性格 ㉢ぼくの家

(問4) ㉣の△と同じ使い方でないものに×をしなさい。

- () 小鳥△暮らしていると、心はいつもなごやかだ。
 () 雨がふる△、木の葉がぬれる。
 () いよいよ夏も半は△になった。
 () 「さようなら」△といってかえた。
 () 近づいてみると、石ころだ△った。
 () 半分だけ知っているのは知らない△同じた。

※ 本文とはいっても、生活感や文の中にはいる文章であるか、みんなと同じ平ばいの作品であるからあまりわかりにくいことはないと思う。ただ題をつけるときに、文章の内容が「強情だ」とか「わがまま」などについて書かれているのだから、それは何をあらわすものかを考えるとすくわがる。



七

つきは中山太郎から町田一雄にあてた手紙文です。読んで問いに答えなさい。()

そろそろ虫の声もすくなくなってきました。その後、別なさまお変わりありませんか。私たち、みんな元気ですか。安心ください。次郎と光子と、今でも東京のことを思い出しては「また行きたいなあ」と話し合っている。ここの冬休みにこちらにぜひいらつしゃい。あまり雪はふらないけれど、おもしろいお正月の行事があります。鄰会育ちのきみはきつと喜んでもらえると思います。おじさんやおばさんのおゆるしもあることですから、かならず遊びにきてください。宿題もいっしょにしませう。楽しみに持っています。

(問1) 太郎と一雄との関係はつぎのどれですか。もつとも正しいと思うものの番号を○でかこみなさい。

- ①いとこ ②きょうだい ③ともだち ④おじとおい

(問2) この手紙文を書いた季節はつぎのどれですか。よいものの番号を○でかこみなさい。

- ①九月のはじめ ②十月の終わり ③十二月のはじめ

(問3) この手紙文の目的はつぎのどれですか。正しいものの番号を○でかこみなさい。

- ①お礼をいうこと ②問い合わせること ③相手をまねくこと

(問4) () のところに入れることばを考えて書きなさい。

(問5) この手紙文の最後の書き方はつぎのどれがよしいか。ふ号を○でかこみなさい。

- (ア)

月	日
中山太郎	

 (イ)

中山太郎	月	日
町田一雄		

 (ウ)

町田一雄	月	日
中山太郎		

(問6) この手紙文の中で「」線をつけたつぎのことばは漢字やことばの使い方が正しくありません。()

- の中に正しいことばを書きなさい。
 (ア) 皆はさま () (イ) いる ()
 (ウ) きみは () (エ) しませう ()
 (オ) 持っています ()

八

つぎの文章を読んであとの問いに答えなさい。

① わたしたち人間は、一つ一つの物に、それぞれ名まえをつけています。② 新しい物を考え出したり、初めて作ったりすれば、すぐ、それに名まえをつけます。

③ それでは、どういうふうにして、物に名まえをつけてきたのでしょうか。

④ みなさんは海にいる「ひとて」というものを知っていますね。⑤ 「ひとて」は、ちょうど人間の手をひろげたような形をしています。⑥ そこで、「ひとて」といわれたのです。⑦ ちょうや、がのよう虫を「いもむし」というでしょう。⑧ あれは、その形がころころふとついで、ちょうど「いも」の形ににているのでこういう名まえがつけられたのです。⑨ これらは、おもに物の形をもとにしてつけられた名まえです。

⑩ また、物の色によってつけた名まえもあります。

⑪ 「からす貝」というのは、貝がらの色が「からす」のように黒いので、このような名まえがついたのです。

(1) 右の文章の中で、作者が事実(事がら)をのべている文を四つ選んで番号で書きなさい。

() () () () ()

(2) また、せつ明するために、れいをしめしている文を六つ選んで番号で書きなさい。

() () () () () ()

読圖 作者が事実をのべている部分と、れいをしめしている部分を読み分けてみましょう。

(3) 読み手に問題を投げかけている文は何番ですか。()

(4) この文章のよう点をつぎの文から二つ選びなさい。

① 新しい物を考え出したり、初めて作ったりしたときには、名まえをつける。

② 物にはそれぞれ、名まえがつけられている。

③ 「ひとて」は、ちょうど人間の手をひろげたような形をしているので「ひとて」といわれている。

④ 物の名まえには、その物の形や色をもとにしてつけられたものがある。

九

つぎの文章を読んであとの問いに答えなさい。

正倉院せいそういんに行っておどろくことが二つある。一つは、千二百年もむかしのものが、よくもそのまま残されているということである。なかには、長い年月の間にいたんだものもあるが、大部分は、遠いむかしのおもかけをそっくり残している。ことに、赤や緑のあざやかなこと、まるで、今、作ったばかりかと疑われるほどである。もう一つおどろくことは、千二百年も前のものでありながら、なにか西洋風で、しかもしぜん感のすることである。いろいろな形をしたカットグラスなどは、今、わたしたちの家庭で使っても、少しも不似合いな感じはしないであろう。

① この文章を三つの段落に分けるとしたら、どこで切ったらよいですか。その切れめに「のしるしをしなさい。」

② 「おどろくことが二つある。」とありますが、それは何と何ですか。文章の中からぬき書きしなさい。

②

①

③ 二つの「おどろいた点」について、それぞれ、一つずつ具体的に事からや物の名をあげていますが、それをつぎのらんの中から選んで○をしなさい。

② 正倉院せいそういん ① 赤や緑のあざやかなこと

⑤ むかしのおもかけ ④ カットグラス

⑥ 不似合いな感じがしないこと

つぎの文章を読んであとの問いに答えなさい。

平安時代のはじめころに、かな文字が発明されたために、国語の記録もひじょうにらくになりました。かな文字というのは、漢字の画数を略して書いたり、草書体をさらにくずして書いたりしたもので、まったくの表音文字として使われたものです。そこで、前の時代にもさかんに作られた和歌はもちろんのこと、長い物語の類まで、すらすらと書くことができるようになり、平安時代の文学をいちじるしく発展させる力となりました。

(1) つぎのことはの意味の正しいものに○をしなさい。

まったくの ^㉑完全な ^㉒正確な ^㉓いぢるしく ^㉔いぢるしく ^㉕いぢるしく
^㉖たしかかな ^㉗いぢるしく ^㉘いぢるしく ^㉙いぢるしく ^㉚いぢるしく

(2) 「いちじるしく発展させる力」とありますが力となったものは何ですか。つぎの中からよいものに○をしなさい。

- ㉑ 和歌や、物語がさかんに作られたこと
- ㉒ かな文字が表音文字として使われたこと
- ㉓ 漢字の画数を略してかんたんにしたこと

(3) この文章のよき点はつぎのどれですか。もつともよいものを選んで○をしなさい。

- ㉑ 平安時代のはじめころにかな文字が発明された。
- ㉒ かな文字は、漢字の画数を略して書いたり、草書体をさらにくずして書いたものである。
- ㉓ かな文字が発明されたため、国語の記録がひじょうにらくになった。

(4) かな文字は、平安時代の文学を発展させた。

(5) かな文字は、まったくの表音文字として使われた。

① つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

むかし、ある所に、茶つぎのポットがありました。自分のからだがせとものであることをじまんし、形のいい手をじまんしていました。でも、ふたのことは、何にも言いませんでした。ふたは、一度われたものをついだものでした。これが、ポットのただ一つの欠点でした。自分の欠点は、だれでも言いたがらないものです。けれども、ほかのものには、そこにばかり目をつけます。茶わんや、クリーム入れや、さとうつぼ、つまり、お茶道具のなかまたちは、ポットのりつばな手や、申し分のない口のことよりも、われたふたのほうをよく覚えていて、いつも**②**話題にしました。

(1) ①の**①**は何をさしますか。()

(2) ②の**②**は何をさしますか。()

(3) ポットがじまんしたのは、何と何についてですか。()

(4) ポットが、ふたのことについて、何にも言わなかったのはなぜですか。つぎのよいものに○印をつけなさい。

⑦ ふたのことについては何も言う必用がなかったから。

⑧ ふたのことはみんなよく覚えていると思ったから。

⑨ ふたが自分の欠点で、欠点は人に言いたくないから。

(5) お茶道具のなかまたちが、われたふたのほうをよく覚えていたのはなぜですか。よいものに○をなさい。

⑦ 他人の欠点はよく目につくものだから。

⑧ ポットがよくじまんするのがいまいしくて、よい点ははずれようとし、欠点を覚えようとしたから。

⑨ わざと、ふたのことを言ってポットをおこらせるのがおもしろかったから。

(6) つぎのことはの意味でよいものに○をなさい。

⑧ 申し分のない

⑦ いいわけをすることができない

⑨ 何ももんくをいうことのない

⑥ 口で言うのがむずかしいくらい

⑥ 話題

⑦ 話し合いのもとになる考え

⑧ 話し合いをまとめたときつけられる題

⑨ 話の材料、話のたね



十二

つぎの手紙を読んで、とくに答えなさい。
 ちよう、夕方、おじさんの家にきました。
 駅まで、おじさんと正一さんが、むかえにきていました。
 おじさんは、
 「よく来たなあ。新ちゃん、大きくなったね。」
 といつて、大きな手でぼくの頭をなでました。正一さん
 は、とても元気そうて、赤いほつぺたをしていました。
 せいの高さは、ちようどぼくと同じくらいです。おばさ
 んは、こちそうの用意をして待つていました。家に着い
 て、すぐ、たくさんこちそうをいただきました。おばさ
 んは、ぼくがたくさんたべたといつて、よろこびました。
 ぼくは、正一さんと、すぐ、なかよしになりました。正
 一さんは、あした松江の町を案内してくれるそうです。

新 治

おかあさんへ

(問1) 「だれから」「だれに」出した手紙ですか。

() から () へ

(問2) 駅に新ちゃんをむかえに来ていた人に、○をつけ
 なさい。

㊦おばさん ㊧正一さん ㊨おじさん ㊩おかあさん

(問3) おばさんがよろこんだわけは、つぎのどれですか。

㊦ 新治君が大きくなってからだ。

㊧ 新治君がひとりてきたから。

㊨ 新治君がこちそうをたくさんたべたから。

(問4) 新治君は、いま、何という町にいますか。町の名
 まえを書きなさい。()

(問5) 新治君と正一さんとのかんけいは、つぎのどれで
 しょう。

㊦ 前から何回も会って、よく知り合っていた。

㊧ こんど初めて会ったので、どんな人かよく知らな
 かった。

㊨ おたがいに知っていたけれども、ふたりは、なか
 がわるかった。

(問6) この手紙は、つぎのいつ書いたものと思われま
 すか。

㊦ おじさんの家についた日

㊧ おじさんの家についたあくる日

㊨ おじさんの家につく前

十三

つぎの文しょうを読んで、とくに答えなさい。

ベートーベンが、まだわかいころのことであつた。月のさえた夜、かれは友人とぶたりて町へ散歩に出かけた。うす暗い小道の、あるみすほらしい家の前まで来ると、

①かれは急に立ちどまつた。中からピアノの音が聞こえてくる。

「おお、あれはほくの作った曲だ。聞きたまえ、なかなかうまくひいているではないか。」

ふたりはしばらく耳をすましていたが、ピアノの音は、はたとやんだ。

「にいさん、まあなんといい曲なんでしょう。わたしは、もうとてもひけません。ほんとうに一度でもいいから、えんそう会へ行つて聞いてみたい。」

と、さもなげなそうにいつているのは、女の声である。

「いかせてあげたいが、このようにまずしくては、えんそう会どころではなげなそうだ。」

と、兄の音がする。

「はいつてみよう。そうして一曲ひいてあげよう。」

ベートーベンは戸をあけて、はいつていった。

かれは、中にはいつておどろいたのもむりはない。あの女の声の人は、目が見えないのである。ベートーベンは、しずかにピアノの前にすわつた。

(問1) ①の「かれが急に立ちどまつた」のは、なぜですか。

- () つぎの中から、よいものに一つ○をしなさい。
- () 中から、ピアノの音が、聞こえたから。
- () 女の子の話し声が、あまりにかわいそうだから。
- () 自分の作った曲が聞こえたから。

(問2) 「——一曲ひいてあげよう。」といつたベートーベンの気持ちは、つぎのとれででしょうか。

- () 自分の曲をひいていたので、もつと、しよつすにひいてあげたかつた。
- () えんそう会に行けないので、かわいそうだから。
- () 音楽がひしよりにすぎた女の手が、まずしくて、かわいそうだから。
- () みすほらしい家なので、かわいそうな気がした。

(問3) ベートーベンが、しずかにピアノの前にすわつたのは、つぎのうちのどの気持ちででしょうか。

- () 女の子のために、いつしようけんめいひく。
- () 自分の曲のために、いつしようけんめいひく。
- () 友人に、聞いてもらつたために。

十(四)

つぎの手紙を読んで、とくに答えなさい。

光一君、元気かね。

北海道は、このあいだから雪がふりつづいて、すっかり銀世界になってしまった。北海道では、たいてい、十一月の終わりころから、雪がふりはじめ、ひどいふぶきになることもある。ふった雪はとけなくて、根雪になって、来年の春まで残るのだ。

農村の人は、外でハタラクことができず、ストロアをたいた家の中で、わらしことや、かちくのせわをしているのがふつだ。野菜は秋の間にとりいれて、たくさんたくわえておくので、不自由はないようだ。

でも、北海道の人々は、みんな、家の中で冬こもりしているのではない。今ころは、フカイ山おくて木を切り出す作業が、さかんに行なわれている。大木のたおれるようすは、ほんとうにイサましい。

また、冬はこどもたちの天国だ。晴れまには、スキ、スケート、雪がつせんと、みんな寒さに負けずいそがしい。犬や馬や、それに、光一君の知っているめんようなども、元気いっぱいだ。

ところで、北海道でなつかしいのは、土だ。あたたかくなると、きつと雪の下から顔を見せる土なのだが、今はどこにも見られない。ほんとうに春になって土を見る時の気持ちは、雪国に住んだ者でなくてはわからないだろう。

ては、みなさんによろしく。こんどは、絵はがきを送ってあげよう。

十二月十日

新 作

光一君

(問1) ———— さんのひいてあることはを、かん字で書きなさい。(10点)

㉑ () ㉒ () ㉓ () ㉔ () ㉕ ()

(問2) ———— さんのひいてあることはの読みがなを書きなさい。(5点)

㉖ () ㉗ () ㉘ ()

㉙ () ㉚ ()

(問3) この手紙の前文、主文、末文の終わりに、『を』つけなさい。(9点)

(問4) 「不自由がない」のは何とすか。(5点)

()

(問5) なぜ、「冬はこどもたちの天国」なのでしょう。(5点)

()

(問6) この手紙で知らせようとしている事がらは、つぎの中のどれでしょう。○を一つつけなさい。(6点)

㉛ 北海道では雪がふるのが早い。

㉜ 北海道の冬はぼうす。

㉝ 北海道の人は冬がきらいて、早く春が来るのを待っている。



十五

つぎの文しょうを読んで、とくに答えなさい。
 「ヤーイ、てんぼう、てんぼう。」
 と、村の子が、こういつても、清作は、はをくいしばって
 いました。そして、「今にみる、きつとりつばな人にな
 ってやるから。」と、心を強くするのでした。これが、野
 口英世の小さい時のことです。こうして、何事につけて
 も、清作は、苦しい中で、がまんするのでした。
 (問1) 清作が人から悪口をいわれて、だまっていたのは
 どうしてですか。()
 (問2) 悪口をいわれるたびに、清作はどうしましたか。()

十六

つぎの文しょうを読んで、とくに答えなさい。
 こんなわらい話があります。
 お月さまと、お日さまと、お星さまが旅さきていっし
 よになりました。三人は、同じやと屋にとまりました。
 あくる朝、お星さまが田をこましてみたら、お月さまも
 お日さまも見えません。——おや、どこへ行ったのだろ
 う。お星さまが、ふしぎに思つて、やと屋の主人にたず
 ねたら、
 ④「お月さまもお日さまも、ゆう、おだちになりました。」
 と、答えました。お星さまは、
 ⑤「明日のたつのは早いものだ。」
 と、ひとりごとをいいました。
 ①「④」のこたはをいいたのは、つぎのたれですか。○
 をつけなさい。(3点)
 ⑦ お星さま ④ お日さま
 ⑧ やと屋の主人 ⑤ お月さま
 ②「⑤」のこたはをいいたのは、つぎのたれですか。○
 をつけなさい。(3点)
 ⑦ お日さま ④ やと屋の主人
 ⑧ お月さま ⑤ お星さま
 ③ これは「わらい話」だといつていますが、
 などこたがおもしろいのですか。(6点)



十七

つぎの文しようを読んで、とくに答えなさい。
 「十和田湖でさかなを育ててみたいがどうだろう。」
 ランプのほのおがゆらめくろぼたて、和井内貞行は、
 つまのカツ子に言った。つまはおどろいた。おどろく
 のもむりはない。神のぼちて、さかな一びきもない
 といわれる十和田湖である。

「わたしは、前から考えていた。水も水草も調べた。
 さかなのえさになる小虫もいる。ここでさかなが取れ
 るようになれば、みんなの食料になるばかりが、こど
 もや孫の代までも、いや、もつと先々まで、この地方
 の大きな産業になる。」

熱心なことは、つまも動かされた。明治十七年、
 貞行が二十七才の時である。

しことは、さつそく始められた。

- (問1) だれのでん記ですか。()
 (問2) 何をなしとけようとした話ですか。()
 (問3) 仕事の目あては、何ですか。()
 (問4) 今までに、どうしてできなかったのですか。()

十八

つぎの文章を読んで、問いに答えなさい。(4点)

北里博士は、コッホ先生の恩をわすれず、先生の死後、
 毎年コッホ祭を開き、記念の会をもよおしていました。
 ところが、大正六年といえは、不幸にも、第一次世界大
 戦でドイツと戦っていたときなので、敵國の人を記念す
 るとは何ごとだと言う人がありました。それに対して、
 博士は、「學問に敵みかたはない。敵國の人だから記念
 してはならないというのは、學問とは何であるかを知ら
 ない者の言うことだ。コッホ博士は、人類の大恩人であ
 る。人間であるかぎり、このよつな人は、いつ、どんな
 はあいたも、どこの國でも、そんなけいしなければなら
 ない。」と、あやまつたひなんに答えました。

- (1) あやまつたひなんとは、文中のど三をさしめすが、十
 五字以内で答えなさい。()
 (2) 北里博士の學問に対する考え方がもつともよくあらわ
 れていることは文中から選り、十字以内で答えなさい。()

十九

つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

エジソンは研究に迎われて、税金を納めるのをわすれていたことがありました。役所からさしそくがきたので、エジソンは急いで税金を納めに行きました。そのとらうも研究のことを考えながら歩いていきました。係りの人が、「どなたですか。」と聞きました。すると、エジソンは、「さて、だれてしたつけ、ええと、ぼくは……。」口をもぐもぐさせるだけで、自分の名まえが出てこないのです。

(問) エジソンはどんな人だと思いますか。つぎの中からよいと思うものに○をしなさい。

- (ア) エジソンは研究は熱心にやるが、わすれっぽい人だ。
- (イ) エジソンは研究に迎われているときでも、税金を納めにくいほど、きちょうめんな人である。
- (ウ) エジソンは研究にすべてを打ちこんで生きている人である。
- (エ) エジソンは、ときによつては自分の名まえをわすれるほど、ぼんやりした面もあった。

二十

つぎの文章は「ひめだかの観察」という文章の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

四日めの二十七日には、糸のような血管の中に血の流れが見え始めました。その成長の速いには、みんなびっくりしました。二十九日には、魚の形が、たまごの中にもろく見え始めました。頭のあたりに、黒い二つの目があるのが、けんび鏡なしでも、わかるようになつてきました。七月一日に、初めの一びきが、かわいひめだかの子になつて泳いでいました。ほうがんと紙を下にしたガラスの器に移して、大きさを測つたら、四ミリほどありました。

- (1) たまごが生まれたのは何日でしょう。
- (2) 血の形が見え始めたのは、何日めですか。
- (3) たまごが子めだかになつたのは何日めですか。
- (4) そのときのひめだかのようすはどうでしたか。

三十二

町のけいじ板につきのような知らせが出ていました。答えのよいの()をしなさい。

映画会 2月10日(日曜日)	雨天顺延 午後6時~9時	千田中学校校庭 入場無料	広島文化会
-------------------	-----------------	-----------------	-------

(1) 十日にも雨がふり、十一日にも雨がふったら映画はどうなりますか。
 (2) 十一日にあやめてしまう
 (3) 十一日にやる
 (4) 十二日にのぼす
 (5) つぎの日曜日

(2) 映画を見るのには、お金はどうすればよいでしょう
 (1) お金はあとして出せばよい (2) お金は前の日に出す
 (3) お金は見るときに出す (4) お金はいらぬ

三十二

つぎの文を読んで問いに答えなさい。

植物採集のおしらせ

きたる十九日(日)に理科部植物はんて植物採集をすることになりました。当日は山口先生と大川先生がいらっしやつていろいろ教えてくださる予定です。はんにはいくつかいい諸君の参加を歓迎しますから、希望者は六年二組の安田に申し込んでください。なお雨天の場合は中止します。

記

一、日 時 五月十九日午前八時三十分
 一、集合場所 新種駅表口
 一、行く先 高尾山
 五月三日

理科植物はん

(問1) 右の文章が掲示例にはつてあります。この中に書かなければならぬことが三つぬけていますが、それをつぎにあけてください。

(問2) 右の文章のうち、かたわらに線をひいたのでこのころは、そのまま終わりまでずっと読んでいくと意味はわかりますが、文章として聞かぬとびでいます。そこで、()をよめていろいろにならしてみましたが、つぎのうちどれがよいでしょう。もつとも適當なものに()をつけなさい。

①…予定ですが ②…予定ですので ③…予定です
 ④…予定として ⑤…予定して

(2) () () ()

三三三

つぎの文章を読んで、問いに答えなさい。

ことは、たしかに文化を育てていく原動力だと思えます。文化の発達には、ことはなしには考えられないと思います。わたしは、もと、文化の原動力は人間の思考の力にあるのではないかと感じていました。ところが、よく考えてみると、思考そのものがことはであり、ことはによつておし進められているのではないかと気づいてから、ことはのどうとさを、いつそう切実に感じたわけです。

(問1) 「ことはによつておし進められている」のはつぎの何ですか。

- ①文化 ②ことは ③思考 ④人間 ⑤原動力

(問2) もと文化の原動力は何にあると考えていたのですか。

- ①ことは ②人間の思考の力 ③まことに適切に

(問3) 「切実に」というのはどういう意味ですか。

- ①切った実のように ②いままでより以上に
③まことに適切に

三三四

文章を読んで、問いに答えなさい。

いわゆる頭のよい人は、(①) 足の速い旅人のようなものである。人よりさきに人のまだ行かないところへ行きつくこともできるかわりに、途中の道ばたや

(②) ちよつとしたわき道にあるかんしんなものを見おとすおそれがある。(③) すなわち足ののろい人がすつと後からおくれてきく、わけもなくそのだいしな宝物をひらいて行く場合がある。

(問1) 文中の()にあてはまることばを見つけて記号で入れなさい。

- ①ゆりしかし ④いわば ⑤決して ⑥あるいは

(問2) この文章はつぎのどんなこととをいっているのですか。正しいものの番号を()でかこみなさい。

- ①頭のよい人が安心して歩けない。
②頭のよい人の欠点をのべ、また頭の悪い人の長所をのべている。
③頭の悪い人は、人よりおくれる。
④頭のよい人への、ましめかのことである。

二十五

つぎの文章は、何について書かれたものですか。()
 の中の正しいものの記号を○でかこみなさい。

新聞の記事には、政治・経済・外交などに関するニュースや社会のできごとに関するニュースなどがある。そのほか学問・芸術・宗教などに関する記事・家庭や婦人向けの記事、もよおしもの・スポーツ・こらくなどと、幅広い範囲にわたっている。

①新聞の種類 ②記事の内容 ③ニュース

二十六

つぎの日記を読んで、問いに答えなさい。

きょう、野口英世のてんきを読んだ。てんぼうといはれながらも、いつしんに勉強し、家の手伝いをした少年清作のりつばさや、清作の母が、清作の勉強ぶりをたのしみに、まつくろになつてはたらいたちとい母のあいに心をうたれた。

(問1) 「てんぼう」といわれたのはだれですか。

()

(問2) 少年清作とはだれのこですか。()

(問3) ①②③④⑤の()を、漢字で書きなさい。

①() ②() ③() ④() ⑤()

(問4) 文中に一字、かなづかいのまちがひがあります。

そのことはどろがして書きなさい。()

(問5) 作者は何に心をうたれましたか。

()

二十七

つぎの文を読んで、あとの問に答えなさい。
 また、わたしたちの生活は全世界の恩恵を受けている。
 どこかで便利な機械が発明されれば、わたしたちは、
 ① その機械を利用することができる。どこかでいい薬が発明されれば、その薬の恩恵を、すぐわたしたちも受け、
 今まで不治だと思われた病気も直すことができる。すぐれた文学がどこかで書かれて有名になればわたしたちは、
 ② すぐその作品のほん訳を読むこともできる。
 (問) 線をつけた「その」はどのようなことをさしていますか。
 ③ () ④ ()

二十八

つぎの日記文を読んで問に答えなさい。
 朝二はんのとき、おかあさんが、「どちらもふみ子も、右手と左手との太さがちがうわね。」とおっしゃったので、わたしが、「水くみするとき、いつも右手で運ぶから、右手が太いのよ。」というよ、おとうさんが、「それじゃ、春男のように左ぎつちよて運んだらいいだろう。」と、にいさんのほうを見ながらおっしゃった。十時ころ、青山さんが、お願いしてあつた朝顔のなえを持って来てくださった。午後の水くみは、左手でやってみた。しかし、左手ではなかなかつらく、すぐ水をこぼして、なんべんも右手にかえねばならなかった。正男が、「それ、しつかり、しつかり。」とはやしたてるのでおがしくなって力がぬけてしまった。ひてりがつついてるので、庭の草花は、しおれてしまっそうだ。夕がた、ふみ子とふたりで庭の水まきをした。なんどなくすずしい感じがしてうれしかった。
 (1) この日記の季節はいつですか。 ()
 (2) この日記を書いたのはだれですか。 ()
 (3) この日記の中に書かれている人は何人ですか。 ()
 (4) 左ぎま(左ぎつちよ)の人は何人ですか。 ()



二十九

つぎの手紙文は、森里千さんが、東京の国立博物館に出したものです。博物館の人が返事を出すとしたら、何と何を書けばよいですか。あとのらんの文で、ぜひ必^じようなものに○印をつけなさい。

わたしは小学校の五年生です。歴史がすきで、とくに、はにわに興味をもっています。今、そちらの博物館で、はにわの特別展らん会が開かれていますと聞きました。この十六、十七日の土曜、日曜に、東京のおじさんの所へ行きますので、日曜日に、それを見学したいと思っています。展らん会は、いつまで開かれていますか。開館、へい館の時こくもお教えください。お仕事でおいそがしいところをすみませんが、ご返事をお願いします。

- ①十六、十七日の博物館の予定。
- ②日曜日は閉館しているかどうか。
- ③はにわの特別展らん会が開かれています期間。
- ④開館時間とへい館時間。⑤はにわがあるかないか。
- ⑥博物館での仕事がいちばんいそがしい時こく。

三十

つぎの、おかあさんからの手紙を読んで、あとの問いに答えなさい。

パリに来て一週間たちました。有名ながいせん門の近くのホテルにとまり、美しいパリの町を朝に夕にながめて、気持ちよく過ごしました。夜になると、このがいせん門に四方からライトが当てられ、くつきりとうきよがつて、たいへんきれいです。市の中央にあるコンコルド広場のふん水のまわりには、ちょうど所らやんぐらいの年命の男の子が、おもちゃのヨットをうがべて遊んでいました。八月の半ばというのに、パリでは、そろそろマロニエの葉が落ちかけ、秋を思わせる気候です。記念にマロニエの葉を持って帰ります。

- ①山とこからの手紙ですか。……………()
- ②たれにあてた手紙ですか。……………()
- ③手紙が書かれたときの季節はいつですか。()
- ④コンコルド広場の光景で、筆者の心に残ったことはつぎのとれですか。ふ号に○印をつけなさい。
- ⑤ふん水が市の中央にあること
- ⑥ふん水のまわりで男の子がおもちゃのヨットをうがべて遊んでいたこと
- ⑦美しいパリの町の朝夕のながめ



三十一

つきの文章を読んで、問いに答えなさい。

「日本人は、どうも、抗議する義務を知らないからこまる。」と言った友人があつた。何か不正なことがあつた場合に、それに抗議を申しこむのは、権利ではなくて、義務だといふのである。これは、なかなか味のあることばである。たとえば、電単に乗る場合に、乗客が長い列を作つて待っている。やつと電車が来て、乗客が順々に乗りこむ。そのとき、わきからその列にわりこんで、電車に乗つてしまふ人がよくある。そういうときに、自分の前に、わきからひとりくらいわりこんできても、ちよつといやな顔をするくらいで、そのまま黙認してしまうことがある。こういう場合は、「おれからわりこんではいけません。」と抗議を申しこむべきである。それを、するするに黙許してしまうことは、一つの道徳的な罪悪であることを、よく承知すべきである。

右の文章を三つのだんゑに分け、切れめの最後の文の番号でしめしなさい。

- ① まて ② まて ③ まて
- ④ これは何をいふのですか。文中から書きぬきなさい。

以上は日本の小学校の4年、5年、6年の国語

(日本語)問題集から採りました。中には私立中学、

国立大学付属中学などの入學試験問題もあつた。

諸君の学習の役に立つかいませう。近藤

1971年11月1日